

木津川市環の拠点創出事業に関する提言書(案)



木津川市マスコットキャラクター
いづみ姫

平成 年 月

木津川市環の拠点創出事業準備委員会

はじめに

木津川市には、長い歴史の中で先人達が育くんできた個性豊かな、素晴らしい地域文化が根付いています。

今回の環の拠点創出事業の対象地となった上狛南部地域は、茶問屋に代表される歴史的な建物が織り成す景観があり、また、お茶を身近に感じられる生活があります。

本事業は、市職員による提案から生まれ、「地域との交流の環(わ)」「健康づくりの環(わ)」「サイクリングの環(わ)」の3つの環(わ)を繋げるための交流拠点の整備や整備後の運営方法等について議論してきたところですが、大切なことは、住民・関係団体・行政とが連携・協力する人の環(わ)を大切にしたい拠点づくりをおこなうことであります。

地域固有の素晴らしい文化や、お茶をはじめとした地域の特産品を観光資源として活用し、地域の方々がこれまで大切にしてくられたものをさらに深めていただくことで、この拠点で多くの人の環(わ)ができることを期待するところです。

おわりに、提言のとりまとめにあたり、10人の委員の方々や京都府・市職員の皆様のご苦勞とご協力の賜と感謝申し上げます。

木津川市環の拠点創出事業準備委員会
会長 山崎 正史



目 次

第1章 木津川市の現況と環の拠点創出事業

1-1	木津川市の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1-2	貴重な地域資源の活用に向けて・・・・・・・・	2
1-3	環の拠点創出事業コンセプト・・・・・・・・	3

第2章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容

2-1	拠点施設に関すること・・・・・・・・	4
2-1-1	拠点施設の選定、設置方法・・・・・・・・	4
2-1-2	拠点施設の配置・・・・・・・・	5
2-1-3	拠点施設への導入機能・・・・・・・・	6
2-1-4	拠点施設の整備方針・・・・・・・・	7
2-1-5	拠点施設及び周辺への配慮点・・・・・・・・	7
2-2	事業運営に関すること・・・・・・・・	8
2-2-1	運営の主体・・・・・・・・	8
2-2-2	広報戦略・・・・・・・・	9
2-2-3	設置及び運営財源・・・・・・・・	9
2-3	事業内容に関すること・・・・・・・・	10
2-3-1	期待される取組み内容・・・・・・・・	10

第3章 事業の将来性

3-1	事業の実現に向けて・・・・・・・・	11
3-2	観光ルートなどの整備による集客に向けて・・・・・・・・	11
3-3	事業の将来に向けて・・・・・・・・	12
3-4	歴史ある「まちなみ」の形成に向けて・・・・・・・・	12
【参照資料】	市内の観光名所・観光スポットなど・・・・・・・・	13
	ハブ機能を有する拠点として（市内版）・・・・・・・・	14
	ハブ機能を有する拠点として（市外・広域版）・・・・・	15

【参考資料】

資料1	木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例・・・・・・・・	16
資料2	木津川市環の拠点創出事業準備委員会委員名簿・・・・・・・・	18
資料3	木津川市環の拠点創出事業準備委員会検討経過・・・・・・・・	19
資料4	1～5（第1回～第5回準備委員会）・・・・・・・・	21
	木津川市環の拠点創出事業準備委員会開催結果要旨	
資料5	自転車利用者アンケートの実施結果・・・・・・・・	47



第1章 木津川市の現況と環の拠点創出事業

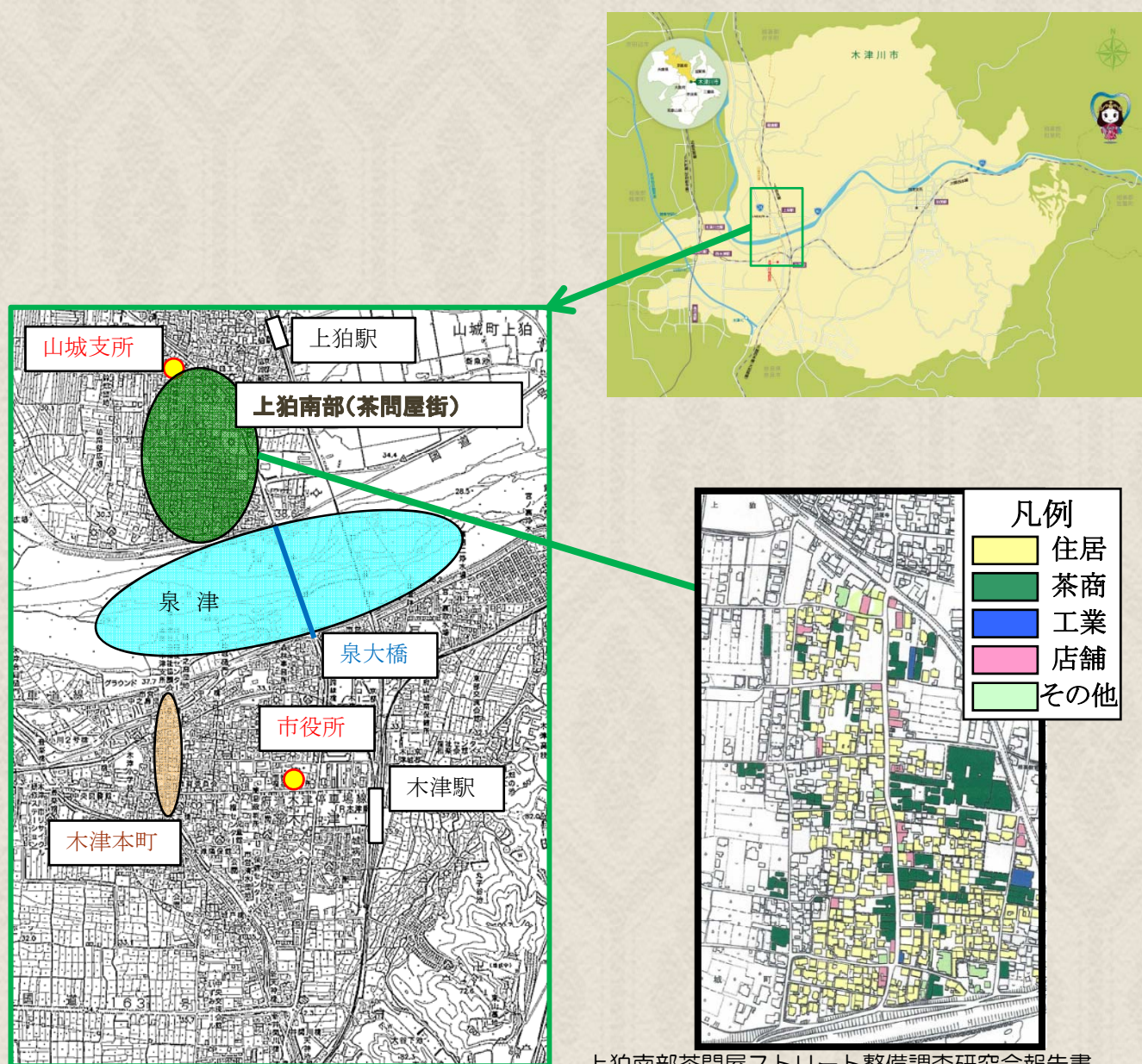


1-1 木津川市の歴史

木津川市は、古都京都と奈良を結ぶ主要な陸路である奈良街道と、大阪・神戸方面への重要な水運であった木津川が交差する位置にあり、古墳時代から流通が盛んで商業が栄えた地域である。泉大橋下流には「泉津」という港が置かれ、平城京造営のための木材を荷揚げするなど、歴史的にも重要な港として栄えていた。

そのため、港の周辺地域も早くから繁栄し、木津川左岸には木津本町地域、右岸には上粕南部地域、そして、木津川上流には加茂船屋地域と歴史的な景観が残された町並みが、現在も残されている。特に、上粕南部地域では、近世中頃から、このような流通網を活かして、綿花を中心とした商業作物の貿易が盛んに営まれた。

明治時代に入ると、アメリカやイギリスなど海外において、日本茶の人気の高まったことから、綿花と兼業して茶商を営む商人が増え、木津川の水運によって、神戸から海外へも日本茶が輸出されるようになった。その後、多様な繊維の登場により綿花の取引は減少していくが、茶商専門の商人が増え、現在でも30数軒の茶問屋が事業を営まれている。



【上粕茶問屋街】

上粕南部茶問屋ストリート整備調査研究会報告書
(平成15年3月)

上粕南部地域 建築用途分類分布図

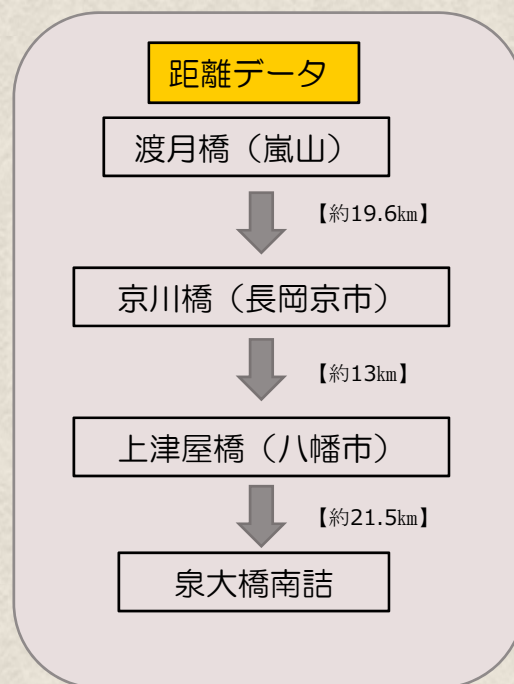
1-2 貴重な地域資源の活用に向けて

前述のとおり上狛南部地域は、明治時代から茶商業が栄え、現在も30数軒の茶問屋が立地している。加えて、山城支所や木津川市山城町商工会等といった公共的施設が集積している。

しかし、茶問屋に代表されるような保全度が高い伝統的な木造建築により歴史的な景観を創り出している一方で、この歴史的な景観の調和が課題となっており、統一感のある景観を保全する取り組みをおこなうことが望まれている。

また、少子高齢化や自動車社会の進展により、食料品をはじめとする生活必需品等を販売する商店も少なくなるなど、地域振興のあり方が課題となっている。

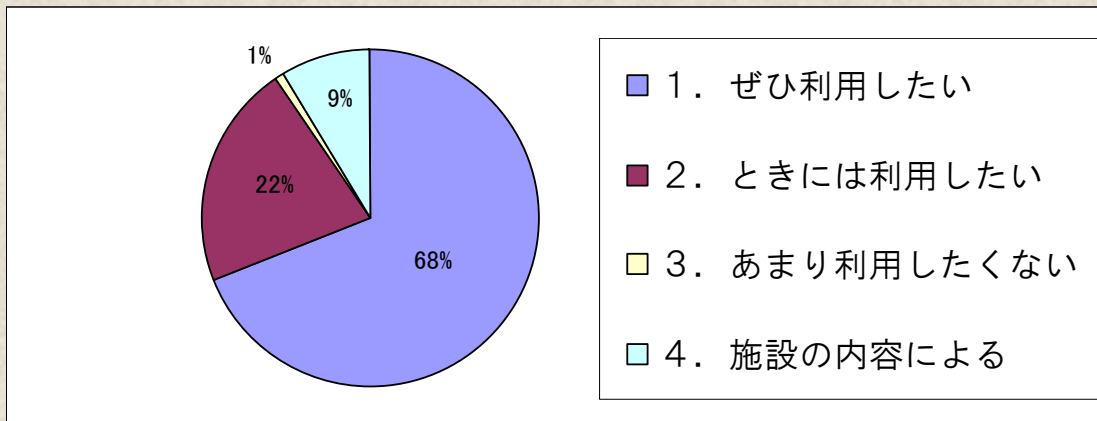
本地域については、このような課題の解決に向け、近年のサイクリングブーム期において、府道京都八幡木津自転車道線の起終点に近く、サイクリング愛好家の利用も多く見込まれることから、茶問屋街などの地域資源を活用した観光と、地域住民とサイクリスト等の観光客との交流を目的とした本地域ならではの新たな事業を創出するために検討した。



自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

問. 木津川市内の自転車道周辺に休憩所があれば利用したいですか。



1-3 環の拠点創出事業コンセプト

上粕南部地域の課題の解決に向けた新たな事業として、「地域交流の環(わ)」、「サイクリングの環(わ)」、「健康づくりの環(わ)」の3つの環を繋げ、上粕南部地域の茶問屋街において、地域特有の資源とサイクリストなどのニーズを融合させた環の拠点創出事業を検討した。

なお、本事業は、広域のサイクリングコースの拠点としても活用できることから、府内の市町村や、奈良県や滋賀県等の近隣自治体とも連携し、サイクリングルートを設定できる等の期待ができる。

環の拠点創出事業のコンセプト



地域との交流の環(わ)

- ①「本物のお茶」の発信
- ②地域特産物の提供
- ③市内の観光ルート拠点
- ④市外との広域的な観光連携



サイクリングの環(わ)

- ①サイクリストの誘客
- ②サイクリストの観光
- ③休憩所などの設置
- ④サイクリングの拠点



健康づくりの環(わ)

- ①地域住民の楽しみ
- ②高齢者の交流
- ③各種サークルの紹介
- ④老人クラブ等の活動



地域振興・サイクリスト等の誘客に向けて

- ①茶問屋街において、既存の地域資源とニーズの融合を図り、サイクリストにターゲットを絞った拠点を整備
- ②広域のサイクリングルートの拠点として活用
- ③サイクリスト等を誘客するための拠点として活用



第2章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容



2-1 拠点施設に関すること

2-1-1 拠点施設の選定、設置方法

本事業の検討にあたり、自転車道の起終点である泉大橋南詰から近く、また上粕南部地域の茶問屋街の玄関口となる拠点施設を検討した。

施設名	京都やましろ農業協同組合倉庫
地番	木津川市山城町上粕北的場15番地
面積	約165㎡
所有者	京都やましろ農業協同組合
使用者	木津川市山城町商工会
施設整備者	木津川市

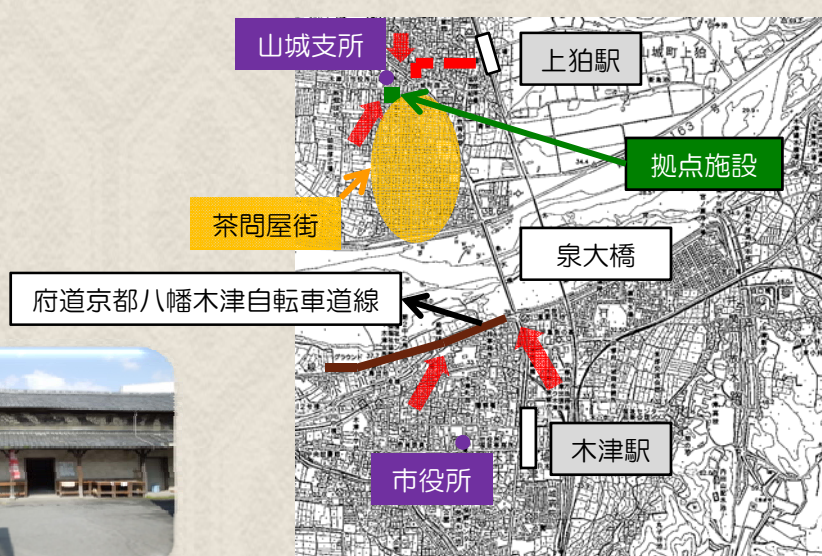
施設の評価

①立地位置としての評価

- ・国道24号にほぼ隣接しており、JR上粕駅からも約400mの位置に立地していることから、**観光誘客面からも利便性が高く、茶問屋街の玄関口として活用**できる。
- ・上粕地域の中心であり、現在も山城支所庁舎等の公共的施設が隣接しており、複合的な施設の利用が可能である。
- ・近年の健康やエコ志向に基づくサイクリングブームにより、自転車愛好家の利用が増加している**府道京都八幡木津自転車道の起終点である泉大橋から、北へ約1,300mの近距離に立地**している。
- ・施設周辺には、自転車愛好家からもニーズの高い、コンビニエンスストア及び飲食店が既に立地しており、周辺には自動販売機等も多く設置されている。

②建築物としての評価

- ・**茶問屋街の趣旨に適合した歴史的な伝統的木造建築**である。
- ・建築基準法上も現在の雰囲気を残した改修等が可能である。



【拠点施設位置】

2-1-2 拠点施設の配置

拠点施設の配置等については、次のとおり整備イメージを検討した。

施設内部イメージ

施設の内部は、現存活用を基本として、2区画（それぞれ約45㎡程度の正方形【6.7m×6.7m】）を地元地域向け機能とサイクリスト向け機能として設置する。

施設周辺全体イメージ

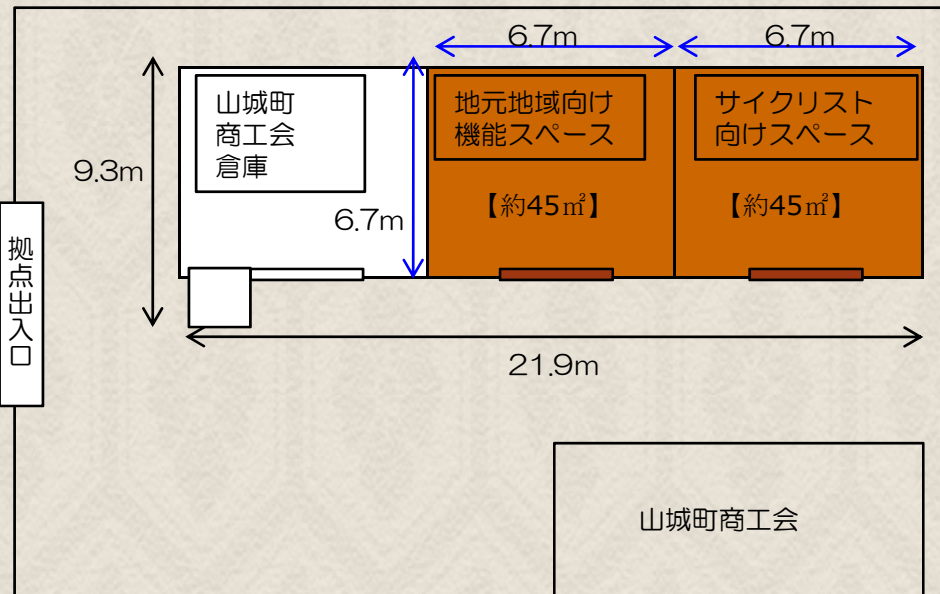
周辺施設に配慮しながら訪問者等が、わかりやすく移動できるような整備を行う。



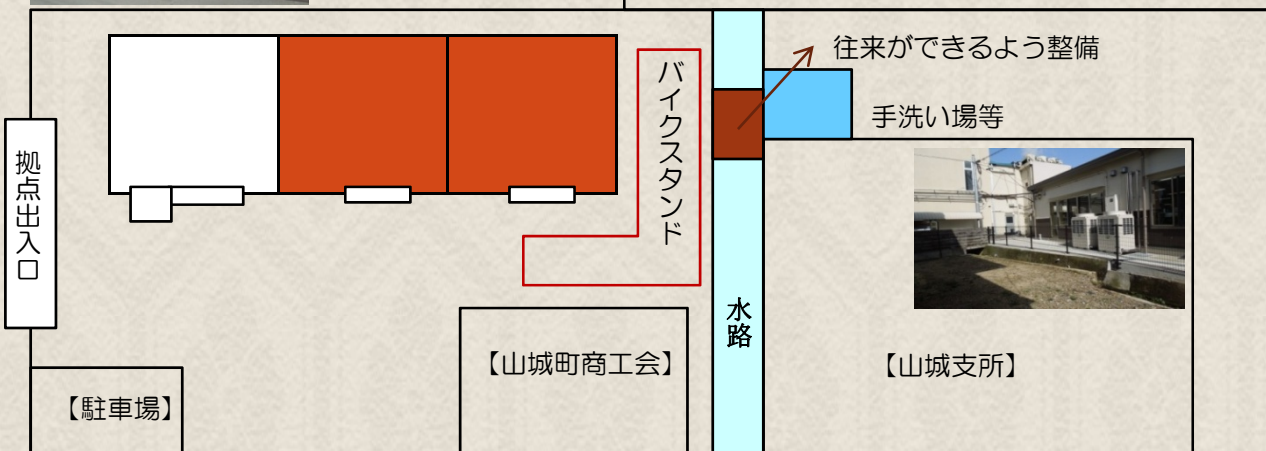
【全景】



【内部】



【施設内部の配置イメージ】



【施設全体のイメージ】

2-1-3 拠点施設への導入機能

導入機能については、自転車アンケートの調査結果を基に必要となる機能を検討した。

基礎的機能

トイレ、駐車場、自動販売機（飲物）、会話スペース（ベンチ）等

サイクリスト向け機能（サイクリスト支援コーナー）

バイクスタンド、スリッパ（サイクリストシューズ履き換え用）、水道設備（洗面及び手洗い・自転車洗車用）、サイクリスト用マップ、サイクリスト伝言掲示板、有料駐車場、サイクルピット、コインシャワー等

地域振興向け機能（地元PRコーナー）

地元野菜直売所、地元特産品販売所（展示含む）、観光案内マップ・看板（拠点施設周辺の歴史文化など）等



【自動販売機】



【ベンチ】



【バイクスタンド】

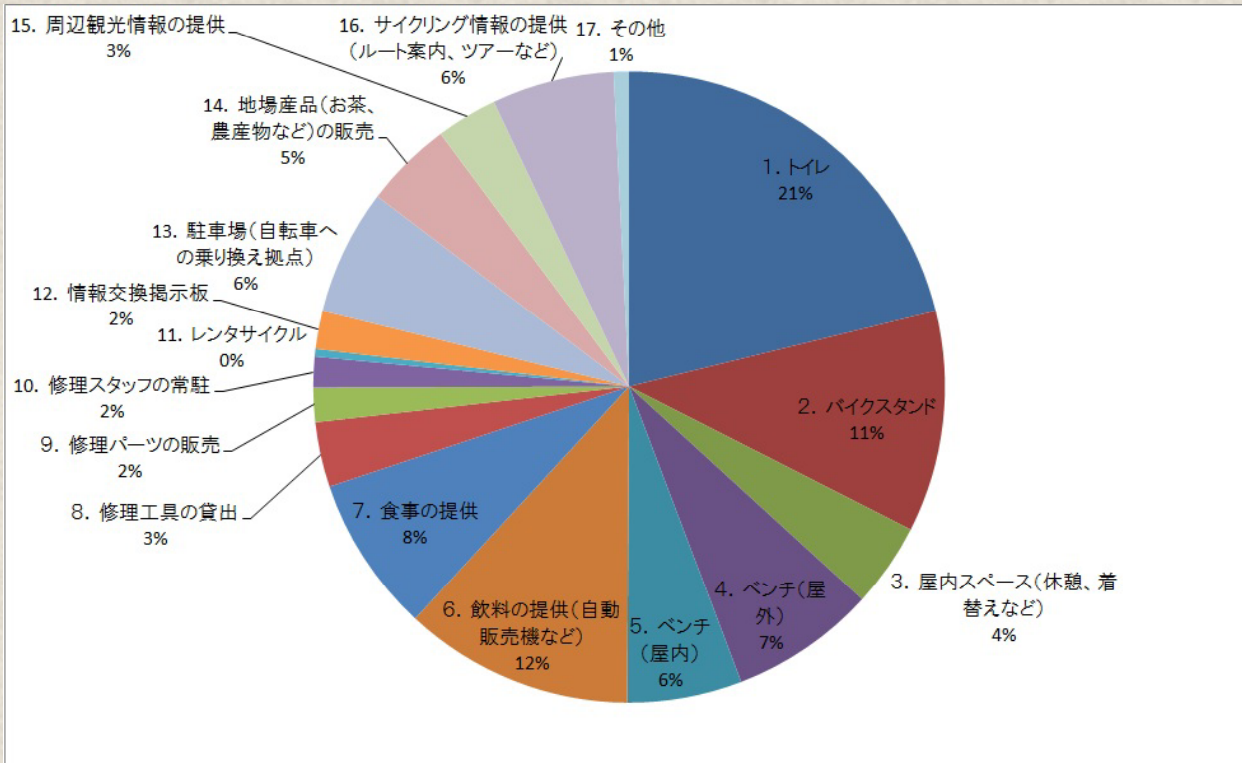


【農産物販売所】

自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

問. 拠点施設の機能として、何が特に必要と思いますか。



2-1-4 拠点施設の整備方針

不特定多数を集客する公共施設として、建築基準法やバリアフリー法等を考慮し、安全な施設としての整備を図るものとする。

詳細

本施設整備については、建築基準法の建築確認申請の対象ではないが、不特定多数の利用者が想定されることから、建築基準法、バリアフリー法を順守した上で、整備を進めるべきである。

なお、現状においては、以下の改築等の検討が必要である。

- ・ 耐震調査結果に基づく改築
- ・ 自然採光窓の設置（床面積1/20以上の窓）
- ・ 排煙窓の設置（床面積1/50以上の排煙窓）
- ・ 外壁・軒裏の防火構造対策



【排煙窓イメージ】

2-1-5 拠点施設及び周辺への配慮点

拠点施設への安全な誘導と交通事故防止対策

- ・ 泉大橋（京都八幡木津自転車道線終点）からのサイン等による安全誘導
- ・ 自転車による交通事故防止対策（道路整備・注意喚起）

詳細

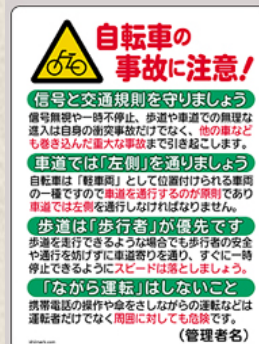
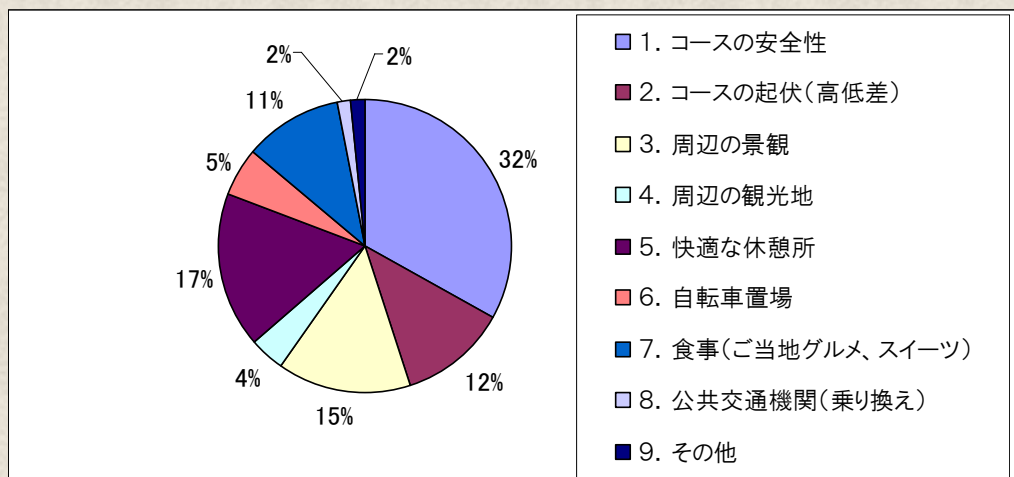
自転車アンケートの調査結果のとおり、サイクリストの立場から拠点施設への自転車による移動アクセスが安全、かつ、容易でなければ、多くの方の訪問を期待することができない。泉大橋から拠点施設まで、一般道路（通学路を含む日常生活道路）を通行することとなることから、自転車による交通事故防止対策に万全を期すためにも、**管轄の木津警察署や道路管理者から交通に関する助言等を得ておく必要がある。**

また、周辺には拠点施設やショップの案内看板などを設置する必要がある。

自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

問. サイクリングコースを考える上で重視していることは何ですか。



【看板例】

2-2 事業運営に関すること

2-2-1 運営の主体

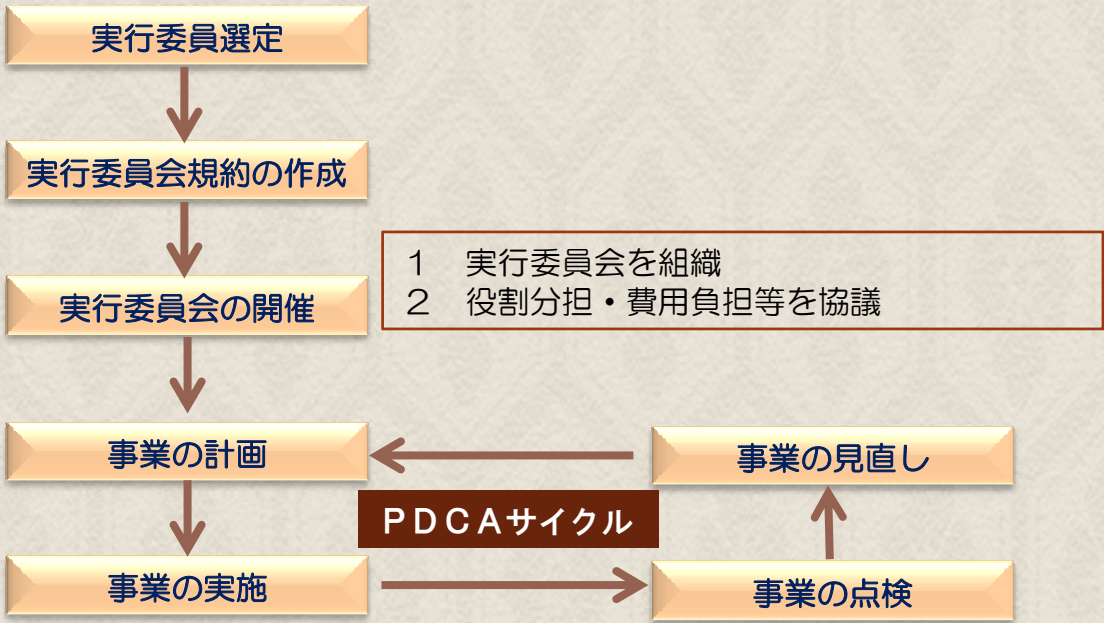
実行委員会方式とし、市は、各種団体へ設置及び参画の協力依頼に努める。地域団体及び公共的団体等が、新しい一つの組織（【仮称】環の拠点実行委員会）を立ち上げ、事業を展開する。

実行委員会方式のメリット

運営主体	メリット
実行委員会	①企画段階から、各主体の意見を議論し、事業を実施することで、適切なパートナーシップを築くことができる。 ②参加する各団体が協力することで、それぞれの団体が持っている情報やノウハウ、人的パワーなどを活用することができ、市民ニーズに即した企画や、より規模の大きなイベントの実施が可能となり、幅広い参加が期待できる。

実行委員会方式の流れ

事業の実施状況を確認し、計画(P l a n)→実施(D o)→点検(C h e c k)→見直し(A c t)のプロセスを繰り返し行う、PDCAサイクルにより、事業の達成状況などを管理します。



2-2-2 広報戦略

茶間屋街等を題材として、あらゆる媒体を活用しながら丁寧に周知していくこととする。

①広報誌及び案内サイン等による周知

観光関連パンフレット、市広報誌、市ホームページ、報道機関や自転車書籍への情報提供及び当施設イベントチラシ、案内サイン等

②クチコミ等による周知

各種団体からのクチコミ発信、サイクリストの伝言板等の活用、地元地域や各種団体への直接出前説明等

③電子媒体を活用した周知

事業運営主体のホームページ、ブログ、フェイスブック、ツイッター等



【市広報誌】



【観光パンフレット】



【市ホームページ】



【ツイッター】



【フェイスブック】

2-2-3 設置及び運営財源

設置及び運営財源

当施設の改築費用や案内サイン等の初期整備財源、及び本事業が軌道に乗るまでの事業運営財源は、木津川市が市民協働事業としての運営財源等が対象となるような国及び府の補助金等を活用して確保するものとする。

また、市は開設後の利便性向上や改善に向けた施設整備についても、補助金等を活用できるように対応するなど、補助金制度の研究等について中心的な役割を担っていくことが望ましい。

2-3 事業内容に関すること

2-3-1 期待される取組み内容

本事業は地元地域活性化のため、及びサイクリストなどの誘客のための双方からの視点による取組みをおこなう必要がある。

また、地元地域活性化のために、地域の住民が交流を深め、拠点施設を盛り上げるための取組みをおこない、サイクリストなどを迎えることとして、市民がおもてなしをおこなうことが望ましい。

このことから、本事業に関係する団体の会員・組合員、地元住民などで、ワークショップをおこない、次のとおり取組み内容を取りまとめた。

	期待される取組み内容等
全般的な拠点施設に関すること	拠点施設のPR活動 各団体のイベント会場としての活用
地元地域に関すること	各種サークルの紹介と交流活動 老人クラブ等の地域活動
農業に関すること	地元野菜・農産物の朝市販売 規格外農産物等の低価格販売 ぶどう生産組合の活用
商工に関すること	地域特産品(※)の開発・販売・展示 弁当(地域特産品使用)の販売 拠点カフェの設置
観光に関すること	観光モデルコースの検討 ・季節毎のみどころ案内 ・文化財の紹介 ・山城名所巡り 観光マップの作成 スタンプラリーの実施 木津川市マスコットキャラクター(いづみ姫)の活用
茶業に関すること	お茶の淹れ方講座の実施 お茶の販売・提供サービス 茶問屋・お茶の歴史等の紙芝居
サイクリングに関すること	サイクリスト講習会の実施 ツーリングイベント等の企画 修理店舗の案内 サイクリングコースの新設・案内 サイクリングマナーの案内・発信 電動アシスト付き自転車レンタル

※地域特産品：タケノコ焼酎、タケノコバーガー、タケノコまんじゅう等



第3章 事業の将来性



3-1 事業の実現に向けて

環の拠点創出事業の実現に向けて、サイクリストや利用客が楽しむことができる施設という、所期の目的が反映できるよう、財源確保も含め、時代のニーズ等に基づき、木津川市をはじめとする地元地域団体が、弾力性を持って、地元地域のために手を取り合って進めていく必要がある。

また一方、運営面では、その継続性を確保するため、運営参加者が楽しみながら、利便性のあるシステムづくりが大切である。

3-2 観光ルートなどの整備による集客に向けて

市内には、茶問屋街と同様に、歴史的なまちなみが残る木津本町地区や加茂船屋地区がある。また、拠点施設周辺や旧山城町北部地域の椿井大塚山古墳や蟹満寺などの観光名所に加えて、浄瑠璃寺や岩船寺など多くの国宝・重要文化財を所有する神社仏閣や石仏の道のある当尾地区、恭仁宮跡や海住山寺の歴史的資源を有する瓶原地区などの観光エリアが数多くあり、これらのエリアと、拠点施設とを結ぶサイクリングコースや散策ルートを設定し、マップの作成を進めていく必要がある。

ただし、サイクリングコースには、利用者の増加とともに、要所にトイレやバイクスタンドなどの整備の検討が必要になるものとする。

また、市外にも多くのサイクリングコースなどがあり、本拠点にハブ（中継）機能を持たせ、将来的には、上狛南部地域を中心としたサイクリングコースや散策コースができることを期待する。（13・14・15頁 参照資料）

自転車アンケートの調査結果（抜粋）

問. よく行かれる目的地はどこですか。

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

2人以上の回答があった目的地		1人から回答のあった目的地
嵐山	15人	けいはんなホテル（精華町） けいはんな記念公園（精華町） 当尾（木津川市）、 三国越林道（和束町～伊賀市）、 大正池（井手町）、 くろんど池（交野市・生駒市） 京都市、京都大原、大和郡山市、吉野町、 枚方市、門真市、淀川、藤井寺市、金剛山、 天野原、和歌山県 （地名・施設名以外） パン屋、直売所、歴史跡巡り 日帰り圏内どこでも、自然との触れ合い
上津屋橋（流れ橋）	10人	
木津 ※木津川市(1)含む	8人	
八幡市 ※御幸橋(2)含む	4人	
奈良市	4人	
信楽	4人	
和束町	3人	
京田辺市 ※京田辺市運動公園(1)含む	2人	
明日香村	2人	
滋賀県 ※琵琶湖(1)含む	2人	
大阪市	2人	

3-3 事業の将来に向けて

地域活性化・市内外へのアピールとして

本事業を機会とし、それぞれの団体が新しいネットワークづくりをおこない、他の地域振興事業のモデルとなるように充実を図る。

また、本事業が市内の各地域においても展開されることを期待する。

3-4 歴史ある「まちなみ」の形成に向けて

地域住民の力で景観整備につなげる

市内には上粕南部地域のように、伝統的木造建築や歴史的資産等により、地域特有の景観を創り出している地域が市内に点在する。しかし、どの地域においても地域特有のまちなみなどの景観の調和が課題となっている。

良いまちなみを保全し、活かしていくためには、地域住民がその価値を見直すことにより、今あるものを残しながら、特色ある景観が形成されていくことを期待する。



【上粕南部のまちなみ】



【旧奈良街道のまちなみ(木津本町)】



【加茂船屋のまちなみ】

市内の観光名所・観光スポットなど



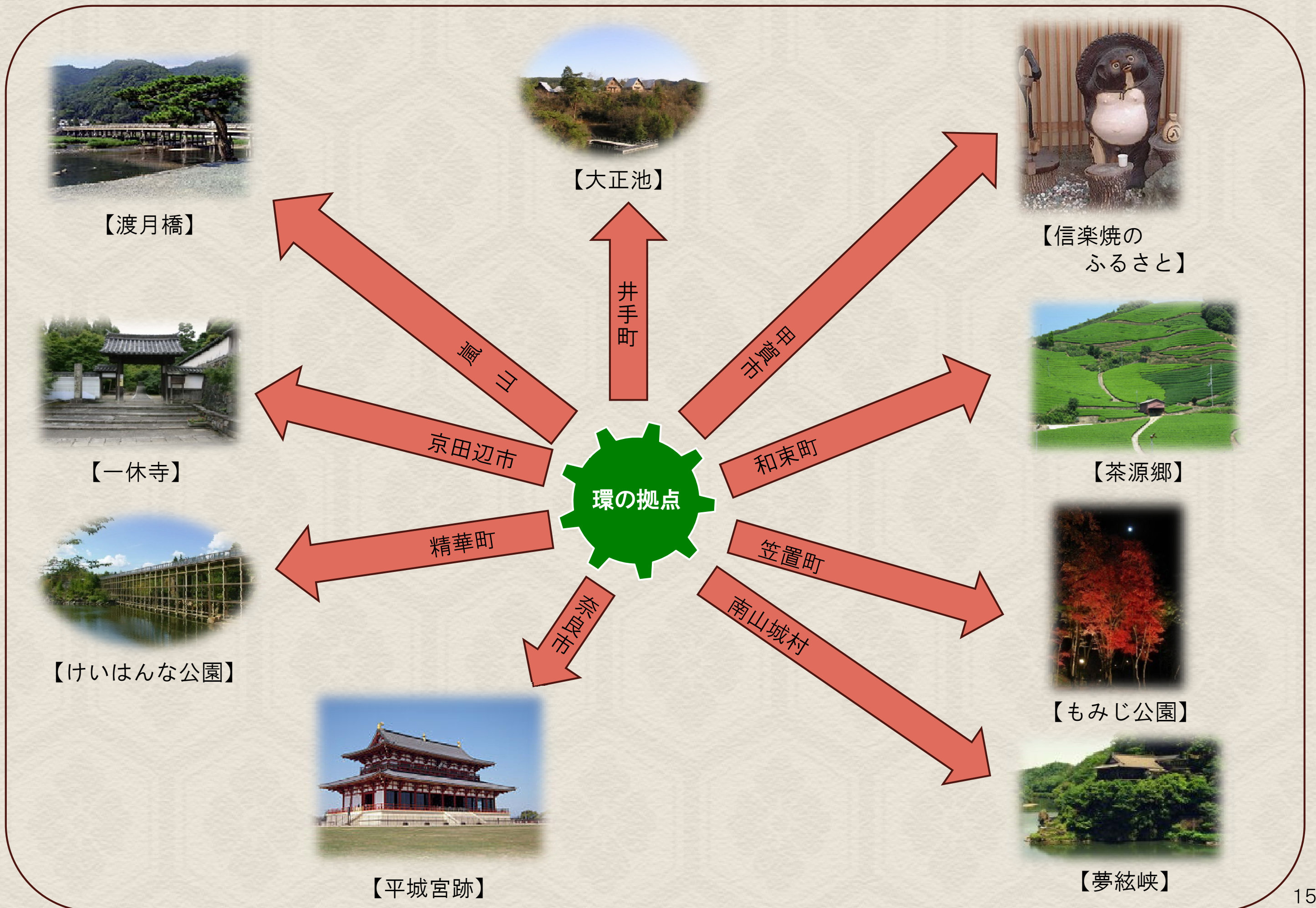
【木津川市シティマップ引用】

ハブ機能を有する拠点として（市内版）



【参照資料】

ハブ機能を有する拠点として（市外・広域版）



木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例

木津川市環の拠点創出事業準備委員会条例

平成 24 年 12 月 26 日条例第 35 号

(設置及び目的)

第 1 条 木津川市山城町上狛地域が築いてきた茶文化による観光の推進と地域間交流を促進するための環の拠点創出事業準備委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会の所掌事務は次のとおりとする。

- (1) 環の拠点創出事業に関する調査及び審議を行うこと。
- (2) 前号の環の拠点創出事業に関して、市長に提言すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 12 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者から市長が委嘱する。

- (1) 地域住民の代表者
- (2) 識見を有する者
- (3) その他市長が必要と認める者

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、平成 26 年 3 月 31 日までとする。

(会長及び副会長)

第 5 条 委員会に会長及び副会長 1 人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、委員会を代表し、その会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会は、会長が招集し、会長が議長となる。ただし、最初にかれる会議については、本条の規定にかかわらず市長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第 7 条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(公開)

第 8 条 委員会の会議は、公開とする。ただし、会長が必要と認めるとき

は、公開しないことができる。

2 委員会の会議の日時及び場所等については、あらかじめ広く周知することに努めるものとする。

3 委員会の会議の資料及び結果は、その開催後、速やかな公表に努めるものとする。ただし、第1項ただし書の規定に基づき会議を公開しない場合は、その資料及び結果を公開しないこととする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、企画担当課において処理する。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、委員会の設置及び運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(会議の特例)

2 第5条第2項の規定にかかわらず、会長が選出されるまでの間、第9条の庶務を処理する担当課長がその職務を代理する。

(失効)

3 この条例は、平成26年3月31日限り、その効力を失う。

木津川市環の拠点創出事業準備委員会 名簿

(敬称略)

区分	氏名	構成団体
第 1 号委員	福井 保知	上狛南部地域（地域長）
第 2 号委員	山崎 正史	立命館大学理工学部（教授）
	岡井 有佳	立命館大学理工学部（准教授）
第 3 号委員	川邊 隆司	山城茶業組合（組合長）
	坂本 利正	木津川市観光協会（理事長）
	杉野 耕造	自転車関連産業
	辻 忠	山城町ふるさと案内人の会（会長）
	出栗 伸幸	サイクリング愛好家
	花田 啓	京都やましる農業協同組合（山城支店長）
	藤原 久博	木津川市山城町商工会（会長）
	吉村 由美子	サイクリング愛好家

【委員区分】

第 1 号：地元地域の代表者

第 2 号：学識経験者

第 3 号：市長が認める者

(商工団体、茶業団体、観光団体、自転車産業、サイクリスト)

【オブザーバー】

京都府山城広域振興局企画振興室

室長 辻村 徳夫（平成 25 年 2 月 14 日～
平成 25 年 3 月 31 日）

室長 湯瀬 敏之（平成 25 年 4 月 1 日～）

京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄

準備委員会での検討経過

■第1回準備委員会（平成25年2月14日）

- ・委員委嘱
- ・会長及び副会長の選出
- ・議事
 - （報告事項）
 - ・委員会の役割及び運営
 - （協議事項）
 - ・環の拠点創出事業の概要
 - ・自転車利用者アンケート調査
- ・現地視察

■第2回準備委員会（平成25年3月27日）

- ・議事
 - （報告事項）
 - ・第1回準備委員会現地視察結果
 - ・自転車利用者アンケート結果
 - （協議事項）
 - ・施設選定について
 - ・設置方法について
 - ・導入機能について

■第3回準備委員会（平成25年5月9日）

- ・議事
 - （協議事項）
 - ・環の拠点創出事業に関する提言書骨子（案）について 他
 - ・運営主体について
 - ・運営手法について
 - ・広報戦略について
 - ・設置財源について

■準備委員会にかかるワークショップ（平成25年6月20日）

- ・協議内容
 - 環の拠点創出事業内容について

■第4回準備委員会（平成25年8月23日）

- ・議事

- (協議事項)

- ・環の拠点創出事業に関する提言書（中間案）について 他

■第5回準備委員会（平成25年11月8日）

- ・議事

- (協議事項)

- ・環の拠点創出事業に関する計画書（中間案）パブリックコメントの実施結果について
 - ・環の拠点創出事業に関する提言書について 他

○第 1 回

環の拠点創出事業準備委員会 開催結果の要旨

会 議 名		第 1 回 木津川市環の拠点創出事業準備委員会		
日	時	平成 25 年 2 月 14 日（木） 午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分		場 所 木津川市役所 5 階全員協議会室
出 席 者	委 員	■山崎 正史（会長）、■岡井 有佳（副会長） ■福井 保知、■川邊 隆司、■坂本 利正、■杉野 耕造、 ■辻 忠、■出栗 伸幸、■花田 啓、■藤原 久博、 ■吉村 由美子 ※□：欠席者		
	そ の 他 出 席 者	【オブザーバー】 京都府山城広域振興局企画振興室 室長 辻村 徳夫 京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄 【市関係部署】 山城支所 支所長 松井 功 生活環境部観光商工課 課長 武田 浩文		
	事 務 局	尾崎課長、奥田係長、西村主任		
議 題	1. 開会 2. 委員紹介 3. 市長挨拶 4. 会長及び副会長の選出 5. 議事 （1）報告事項 ・委員会の役割及び運営（資料 1、別紙 1、別紙 2） （2）協議事項 ・環の拠点創出事業の概要（資料 2） ・自転車利用者アンケート調査（資料 3、別紙 3） 6. その他 7. 現地視察（別紙 4） 8. 閉会			
審 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 委員紹介 委嘱状を交付し委員名簿により委員紹介を行った。 3. 市長挨拶 委員会に先立ち河井市長から挨拶があった。 4. 会長及び副会長の選出 山崎委員を会長に、岡井委員を副会長に選出した。			

	<p>5. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の役割及び運営（資料1、別紙1、別紙2） 事務局より、資料1・別紙1・別紙2を基に説明し質疑応答を行った。 <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環の拠点創出事業の概要（資料2） 事務局より、資料2を基に説明し質疑応答を行った。 ・自転車利用者アンケート調査（資料3、別紙3） 事務局より、資料3・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。 アンケートについては、一部修正し取り組むこととした。 <p>6. その他</p> <p>次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>7. 現地視察（別紙4）</p> <p>別紙4を基に、木津本町を車窓から、上狛南部地域を徒歩で視察した。</p> <p>8. 閉会</p>
審議経過要旨	<p>1. 開会</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 委員紹介</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 市長挨拶</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 会長及び副会長の選出</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>5. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の役割及び運営（配布資料 資料1、別紙1、別紙2） 事務局より、資料1・別紙1・別紙2を基に説明し質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) <p>○委員会の役割の中で調査及び審議とあるが、調査の取組イメージはどのようなものか。</p> <p>→調査としては、自転車利用者へのアンケートを予定している他、地域資源について事務局で調査を行い、この委員会で議論をお願いしたい。</p>

(2) 協議事項

・環の拠点創出事業の概要（配布資料 資料2）

事務局より、資料2を基に説明し質疑応答を行った。

主な意見・質疑等は次のとおり。

（○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）

○これまでに茶問屋ストリートで石畳の計画もあったが、事業費の中に含まれているのか。

→山城町時に提言を貰っている内容であるが、今回は、まず人が集まる拠点施設を作り、次のステップとして景観の機運を高めていきたい。

○サイクリングロードを活かすためにも、木津町や恭仁宮跡といった魅力ある様々な文化遺産の活用を考えていくべきではないか。

→今回は市の中でのモデルケースとしたい取組であり、いろいろと考えていきたい。

○建築物の保全是今がぎりぎりのタイミングという思いである。今回の取組はいいことであるが、景観条例をすぐにとは難しいが、保全が好ましいくらいのことは発してはどうか。

→市が規制をかけることは難しい。茶の香りやこれまでの保全の思いを、より認識してもらい、次の段階で検討していく内容になってくると考える。

○自転車を活用した地域振興や観光振興は全国的にも取り組まれている。しかし全てが成功している訳ではない。この地域は奈良・京都の中間に位置し既に自転車道もあるという好条件地である。

サイクリングステーションの運営も色々あり、良い面、悪い面も含めて、それらの調査をしてみてもいいのでは。

次に自転車利用者はいろいろと幅が広い。どこにターゲットを絞るのが重要であり、そこを見誤ると厳しいと考える。

○嵐山から木津そして奈良に自転車道でつながっているのか。

→これまで繋がっていなかった木津川市の部分が整備され、一部自転車道ではないが繋がっている。

→奈良県内は県が整備している自転車道になっている。

○この地域でサブネットワーク的な視点も含め、トイレや休憩所なども含めてマップづくりも課題にしてはどうか。

	<p>○木津川サイクリング倶楽部では、インターネットでモデルコースを紹介している。観光協会の補助で山城や加茂のコースの他、和束町から補助をもらう中で和束町へ抜けるルートも作った。</p> <p>○いろいろなマップがあるのであれば、そういうものも行政と一緒に活用してはどうか。</p> <p>○茶間屋街を訪れる観光客はどれくらいか。 →現状は少ないが、それぞれの主体でイベント等も企画しており、そういった時は多くの訪問がある。</p> <p>○以前の調査の際、住民の機運として8割は景観を整備したいという結果だった。また木津本町辺りでは、建物の階数制限などの声も出ていた。</p> <p>○観光協会でも、さまざまな散策ルートを作っている。</p> <p>・自転車利用者アンケート調査（配布資料 資料3、別紙3） 事務局より、資料3・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。アンケートについては、一部修正し取り組むこととした。 主な意見・質疑等は次のとおり。 （○…質疑・意見、→…質疑に対する返答） ○自転車アンケートは2種類あるが、それぞれの取組イメージはどのようなものか。 →ひとつは、事務局が現地へ出向いてアンケートを行いたい。もう一方はサイクリングクラブ等を対象にしたい。</p> <p>○問1は内容が同じなのに文言が異なっているが意味はあるのか。 →再度、アンケートの内容を確認し修正する。</p> <p>○アンケートのサンプリングがカギになると思うが、ショップやクラブはレベルが高いと思う。それよりも自転車道を走っている方の場合には生の声を聞くことができる。 自転車道の利用者は時間帯で異なる。朝はプロ的な方、昼は家族などピクニック的な利用である。</p> <p>○同行者について質問してはどうか。</p> <p>○子どもと一緒にの際、自動販売機を見つけて給水するのも一苦</p>
--	---

	<p>労である。ぜひ施設には子どもの目線も含めてみてはどうか。</p> <p>○これまで、上狛で観光案内をしたのは徒歩で来られる方ばかりであった。</p> <p>○これからは自転車で来られる方にも歩いてもらってもいいのでは。</p> <p>○休日や週末に自転車の方を見るが、数は少ないイメージである。自転車道の終点に看板などでPRすることで呼び込めるのではないか。</p> <p>○過去の調査でお茶を売っていない。飲ましてもらえないという声もあった。</p> <p>○拠点にもサロンの要素があれば、観光案内所も含めることも可能であることから複合的視点が必要である。</p> <p>○今回のアンケートはレジャーの方を対象にしており、例えば健康を目的としている方は答え辛いのではないか。少し工夫をしてはどうか。</p> <p>○一般の人でも来るような施設、直売所であったり、様々な目的を持つ人が混ざった方が活性化する。</p> <p>○ぜひ商売に結びつけるべきである。</p> <p>○拠点を整備する上で失敗例にはどういうものがあるのか。 →ハコモノである。かつて補助金を使って建てたもので残念な状態になっているものがある。全国人気ランキング7位（2010年 日本経済新聞 何でもランキング おすすめのサイクリングコース）である。この自転車道の終点から500メートルの距離であり、サイクリングだけでなく、ジョギング・ウォーキングを組み合わせるスポーツ的施設もひとつである。そこで地域の情報を得るということも大事である。 ハードだけでソフトが無い所は失敗している。</p> <p>○既に自転車道を利用している方でも終点まで行かない方も多い。現在は拠点が無いので、気軽に立ち寄れるスポットがあるのはいい。</p> <p>○自転車利用は、退職した方は平日に、若い世代は土・休日で</p>
--	--

	<p>ある。</p> <p>○自転車道で言えば、玉水橋・八幡で休憩している人をよく見かけるが、最近は府道上狛城陽線でも多く見る。人を引っ張り込むには、お茶でも目的があればいいと思うが、複合施設があればいい。</p> <p>○これまでから道の駅的なものを要望しているが実現に結びついていない。</p> <p>6. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>7. 現地視察（別紙４） 別紙４を基に、木津本町を車窓から、上狛南部地域を徒歩で視察した。</p> <p>8. 閉会</p>
その他特記事項	傍聴者２人

○第 2 回

環の拠点創出事業準備委員会 開催結果の要旨

会 議 名		第 2 回 木津川市環の拠点創出事業準備委員会			
日	時	平成 25 年 3 月 27 日（水） 午後 3 時から午後 4 時 50 分		場 所	木津川市役所 4 階 4－4 会議室
出 席 者	委 員	■山崎 正史（会長）、■岡井 有佳（副会長） ■福井 保知、□川邊 隆司、■坂本 利正、■杉野 耕造、 ■辻 忠、■出栗 伸幸、■花田 啓、■藤原 久博 （代理出席：矢嶋美千代）、■吉村 由美子 ※□：欠席者			
	そ の 他 出 席 者	【オブザーバー】 京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄 【市関係部署】 山城支所 支所長 松井 功 生活環境部観光商工課 課長 武田 浩文			
	事 務 局	尾崎課長、奥田係長、西村主任			
議 題	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 （1）報告事項 ・第 1 回準備委員会現地視察結果（資料 1、別紙 1） ・自転車利用者アンケート結果（資料 1、別紙 2、別紙 3） （2）協議事項 ・施設選定について（資料 1） ・設置方法について（資料 1） ・導入機能について（資料 1） 4. その他 5. 閉会				
審 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 会長挨拶 議事に先立ち山崎会長から挨拶があった。 3. 議事 （1）報告事項 ・第 1 回準備委員会現地視察結果（資料 1、別紙 1） 事務局より、資料 1・別紙 1 を基に説明し質疑応答を行った。 ・自転車利用者アンケート結果（資料 1、別紙 2、別紙 3） 事務局より、資料 1・別紙 2・別紙 3 を基に説明し質疑応答を行った。				

	<p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設選定について(資料1) 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。 ・設置方法について(資料1) 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。 ・導入機能について(資料1) 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。 <p>4. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>5. 閉会</p>
審議経過要旨	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 会長挨拶 審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回準備委員会現地視察結果(資料1、別紙1) 事務局より、資料1・別紙1を基に説明し質疑応答を行った。 ・自転車利用者アンケート結果(資料1、別紙2、別紙3) 事務局より、資料1・別紙2・別紙3を基に説明し質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) <p>○サイクリングの目的は何か。 →アンケート結果にもあるように「走ることが好き」が約7割であった。</p> <p>○施設利用を考えた場合、自転車利用者はほとんどがリピーターの方であるので、他の人も使えるような施設に幅を拡大していくことが必要ではないか。調査としては、自転車利用者へのアンケートを予定している他、地域資源について事務局で調査を行い、この委員会で議論をお願いしたい。</p> <p>○団体用アンケートで、初心者なのに自転車道を走っていることに驚いた。 →講習会に来られている人は、自転車に興味があったり、趣味としておられる方が多かった。また講習会の内容も、日ごろから走っている人も多くなるものであった。</p> <p>○講習会の自転車は高機能な人が多いのか。 →サイクリストとサイクリストではない方の自転車のイメー</p>

	<p>ジは異なる。自転車道を走っているのはスポーツサイクリングであり、そういう方を対象とした人の講習会である。長距離であっても楽に乗れる方法や楽しみ方が内容である。</p> <p>○茶問屋ストリートには、自転車だけでなく、車やハイキングなどの方も訪れている。ハイキングの方などからは、周辺の観光情報が少ないという声も聞くので、そういった方も対象にしては。</p> <p>○自転車道沿いのグラウンドで遊んでいる子どもも多い。例えばそういった家族連れの方にもPRするための看板やアピールが必要ではないか。</p> <p>○市民は、自分の街を見慣れてしまっているため、あらためて少し意識してしまうような取組はどうか。</p> <p>○サイクリングの楽しみには、峠のアップダウンを楽しむダウンヒルもある。</p> <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設選定について（資料1） <p>事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。</p> <p>（○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）</p> <p>○一か所に絞ってもいいのか。</p> <p>→いくつか候補をあげるというのもあるが、この施設で上手く活用していきたい。</p> <p>○建築基準法について整理はどうなっているのか。</p> <p>→用途は倉庫であり、拠点づくりに際しては、一般的には集会所のような機能を持つため用途変更が必要となる。</p> <p>ただし京都府に確認したところ、面積が100㎡未満であれば、届出は必要ないということであった。また、公共的な施設になるので、耐震や採光等の一般的な基準を準用してはという意見をいただいている。</p> <p>○都市計画の用途地域は何か。</p> <p>→近隣商業である。</p> <p>○この場所は、いろんな条件が整っている。観光・商業・サイクリングなど、複合的にするものでいいものになるのでは。</p> <p>○資料にある地域間交流とはどういったイメージか。</p> <p>→シティサイクルでも気軽に来ていただくような地域内交流をイメージしている。</p> <p>○この倉庫は米の倉庫として活用してきた。JA京都やましろでは、最も古く貴重な施設だと感じている。なお内部の柱は、米貯蔵のための風通しと壁を傷めないようにある。</p> <p>○一度耐震診断を受けてはどうか。</p> <p>→不特定多数の方が利用される施設であり、行政が取り組む</p>
--	---

	<p>ものであるので調査はしていきたい。</p> <p>○木を活用した耐震設計も可能である。限界耐力計算法を用いてはどうか。</p> <p>○自転車を導くルートであるが、スピードの事を考えて、国道を通るルートも含めてはどうか。</p> <p>・設置方法について（資料１）</p> <p>・導入機能について（資料１）</p> <p>事務局より、資料１を基に説明し質疑応答を行った。</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。</p> <p>（○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）</p> <p>○拠点の所でPR板が必要である。拠点から３０分歩けば色々あるのでポイント的でもいいので、情報掲示が必要である。</p> <p>○安全性は大丈夫なのか。自転車だけでも、車・自転車・歩行者の対応を考える必要がある。ただしこれは全国的にも難しい課題である。</p> <p>○施設となれば、人を置いておく必要がある。平日は地域の人を呼び込むことが必要であり、直売所的なものが必要ではと思う。観光客については、歩ける範囲内にも環濠集落をはじめ、ポイントがあるので、そういった所も含めた仕掛けを考えることも必要である。</p> <p>○年中開けていて経営的に大丈夫なのか心配である。</p> <p>○流れ橋は全国的にも有名である。そういった観光スポットがあるのは大きい。また、八幡市の場合は、レンタサイクルの取組をやっており、流れ橋の周辺でも見る。</p> <p>○ぶらりと周辺を回れるような機能も入れてはどうか。</p> <p>○行政がどこまで関わるのか、また民間はどこまでやるのか、その辺りも考える必要があるのでは。</p> <p>○委員会の役割の中で調査及び審議とあるが、調査の取組イメージはどのようなものか。</p> <p>○花野果市の運営は会員で行い、軌道に乗っているが、拠点で同じような施設となれば、この地域の特徴があるものを扱う必要がある。</p> <p>○花野果市でもPRいただき、この施設ではお茶をもっとPRしてもいいのでは。</p> <p>○スポーツとして来る人と、そうでない人の二本立てで考える必要がある。</p> <p>○自転車に乗る方のペットボトルの中身は何か。</p> <p>→スポーツドリンクが基本である。自転車に乗っているときは、スポーツドリンクであるが、休憩するときはお茶も飲む。</p> <p>○嵐山であれば、バイクスタンドのある店に、自転車に乗る人が集中している。</p>
--	---

	<p>○案内について、安全走行上おすすめできないコースという表示した地図などを作ってもいいのでは。</p> <p>○レンタサイクルの自転車も高価なものにしてはどうか。</p> <p>○レンタサイクル等は、競輪の補助金を活用する方法もある。</p> <p>○市内だけでなく近隣市町とも協力して、スタンプラリーを導入し、そこにプレゼントがあれば人は多く集まる。</p> <p>○自転車のアドバイスをボランティアでやることは可能か。</p> <p>→自転車のサークル的なものは、世話人がいて、企画したイベントに人が集まってくるようなイメージである、そういった協力は難しい。</p> <p>→調査としては、自転車利用者へのアンケートを予定している他、地域資源について事務局で調査を行い、この委員会で議論をお願いしたい。</p> <p>○施設の位置からも広告塔が必要である。</p> <p>○利益が出るような仕組みを作って、継続性を図っていくことも大事。</p> <p>○自転車に乗る人はひとりが多い。休憩中に仲間ができ、団体でたまに一緒に走るような人が多い。</p> <p>○自転車にもSOSサービスがあってもいいのでは。</p> <p>○たけのこを掘って、みんなでバーベキューのような体験型プログラムも人気がある。</p> <p>○公共がやるのであれば、一部の人でなく、もっと多くの人ができるように初期の目的に戻り再整理することも必要であり、そこで全体が協力して事業を進める仕組みを考えるべきである。</p> <p>4. その他</p> <p>次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>5. 閉会</p>
その他の特記事項	

○第 3 回

環の拠点創出事業準備委員会 開催結果の要旨

会 議 名	第 3 回 木津川市環の拠点創出事業準備委員会		
日 時	平成 2 5 年 5 月 9 日 (木) 午後 3 時から午後 5 時	場 所	木津川市役所 4 階 4 - 4 会議室
出 席 者	委 員	■山崎 正史 (会長)、■岡井 有佳 (副会長) □福井 保知、■川邊 隆司、■坂本 利正、□杉野 耕造、 ■辻 忠、■出栗 伸幸、□花田 啓、■藤原 久博 (代理出席：森山 誠司)、■吉村 由美子 ※□：欠席者	
	そ の 他 出 席 者	【オブザーバー】 京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄 京都府山城広域振興局 企画総務部 企画振興室 室長 湯瀬 敏之 【市関係部署】 山城支所 支所長 松井 功 生活環境部観光商工課 課長 武田 浩文	
	事 務 局	尾崎課長、奥田補佐、茅早主査	
議 題	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 (1) 報告事項 ・前回までの準備委員会議事の流れ (資料 1) (2) 協議事項 ・木津川市環の拠点創出事業に関する提言書 骨子 (案) について (資料 2) ①導入機能について (資料 2) ②運営主体について (資料 3) ③運営手法について (資料 3) ④広報戦略について (資料 3) ⑤設置財源について (資料 3) 4. その他 5. 閉会		
審 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 会長挨拶 議事に先立ち山崎会長から挨拶があった。		

	<p>3. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの準備委員会議事の流れ（資料1） <p>事務局より、資料1に基づき説明し、確認した。</p> <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木津川市環の拠点創出事業に関する提言書 骨子(案)について(資料2) <p>事務局より、資料2に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>①導入機能について（資料2）</p> <p>事務局より、資料2に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>②運営主体、③運営手法について（資料3）</p> <p>事務局より、資料3に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>④広報戦略、⑤設置財源について（資料3）</p> <p>事務局より、資料3に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>4. その他</p> <p>次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>5. 閉会</p>
審議経過要旨	<p>1. 開会</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの準備委員会議事の流れ（資料1） <p>事務局より、資料1に基づき説明し、確認した。</p> <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木津川市環の拠点創出事業に関する提言書 骨子(案)について(資料2) <p>事務局より、資料2に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。</p> <p>(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)</p>

○今回の資料である提言書骨子（案）は、文字が多く、分かりにくい。

パワーポイント等で作成している資料については、カラーであり、写真等も多く見やすい。このような提言書としたい。作成する部数は。また、カラー刷りでは無理か。

→100部程度作成する予定である。読みやすく、分かりやすい提言書とするため、カラー刷りも可能である。

○2頁の環の拠点創出事業の基本方針に、サイクリングルートの設定についての記載があるが、本提言書においては、拠点整備と、その拠点を中心としたサイクリングルートを設定するなど、将来に向けた木津川市の姿の記載が必要である。具体的には、第1章で環の拠点事業の検討結果、第2章で将来の木津川市のサイクリング等を含む観光ルートの設定などを記載するなど、夢の広がる提言書としたい。

○約45㎡のサイクリスト向けスペースにサイクリストが多く集まるまでには、5年以上が必要と考える。自転車道を利用するサイクリストの休憩場所を、この本拠点とするためには、拠点に行けばこういったものがあるということを浸透させる必要がある。この事業は、整備してすぐに活気が出るような事業ではないことから、長い目で見る必要がある。

○拠点施設について、目につきにくい場所であることから、入口などの整備の工夫が必要と考える。

○なぜ本拠点の施設位置がこの場所なのかを整理する必要がある。また、府道京都八幡木津自転車道線全体の地図や写真などを掲載し、各地点からの所要時間等を記入するなどが必要と考える。

○自転車道中にある三角公園付近では、終点まであと1km程度であることから、終点の看板まで行く、こだわりのサイクリストもいる。このことから、終点地点の看板付近に、拠点施設の案内サインを設置して、施設のPRをおこない、まずは、木津川を渡ってもらうことが重要だと考える。

①導入機能について（資料2）

事務局より、資料2に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。

主な意見・質疑等は次のとおり。

（○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）

	<p>○基本的機能において、大きく分類すると、サイクリスト向けと地元地域向け機能との記載があるが、一般観光客の記載がない。茶問屋街や環濠集落など、この周辺に様々な観光スポットがあり、駅からも非常に近いことから、一般観光客にも本拠点に集ってもらえるような記述も必要である。</p> <p>○ふるさと案内人の立場からすると、この拠点を含む観光ルートを案内することで、サイクリストなどと一緒に楽しむことができ、相乗効果を図ることができる考える。三角公園からの案内看板の意見が出たが、もっと広範囲に渡って、案内看板を設置する必要があると考える。</p> <p>○自転車道の終点は、泉大橋南詰であるが、サイクリストにとっての終点は、本拠点が終点であることをアピールして、整備等を行う必要があるのではないか。</p> <p>○三角公園で、犬の散歩やウォーキングなどの風景をよく見かけるが、概ね西側（精華町側）に向かって歩いている。これを本拠点に向けて歩いていただくようにしなければならない。</p> <p>○標題も「拠点施設導入機能」といういった文言でなく、生活感のある生き活きとしたものとしたい。立地を評価するのではなく、「立地を活かすために」などタイトルも柔らかくしたい。立地のメリットなども記載したい。</p> <p>○資料2の5頁と6頁において、地元地域向け機能と、地域振興向け機能が混在している。文言の統一化を図ること。 なお、地域振興向け機能には、お茶の淹れ方や実演販売、淹れ方講習会も追記してはどうか。また、茶問屋見学会なども開催できないか。 観光マップや観光ルートを説明できるような仕組みづくりも記載してはどうか。 →文言について修正する。</p> <p>○地元地域向け機能スペースと、サイクリスト向けスペースの壁は取り除くのか。交流できるような整備が必要と考える。 →建物の安全を第一に考慮し、利用者が行き来ができるように、配慮したいと考える。</p> <p>○不特定多数を対象とする施設について、100㎡以下であり、建築基準法では、直接の制限を受けないが、1,000㎡以上であれば「バリアフリー法」によるバリアフリーが義務付けられている</p>
--	--

	<p>る。バリアフリー法も充分意識して整備する必要がある。</p> <p>○導入機能として詳細の設備内容の記載があるが、サイクリストの憩いの場所として整備や、サイクリストと地域住民との交流など、まず、施設になる前の機能、何をここでするのかなど、そもそもの目的、あるいは方針の記載が必要である。いきなりトイレなどの文言を記載するよりも、何故この機能が必要なのかを整理する必要がある。</p> <p>→方針と詳細の双方について、記載する。</p> <p>○観光案内所の機能を導入することも必要である。ふるさと案内人のコーナーなどの設置も検討してはどうか。</p> <p>○施設配置イメージについても、図を掲載するだけでなく、施設のイメージについて、見つけやすい、あか抜けているといったキーワードのほか、施設の魅力として、米蔵や歴史的な雰囲気を表わすイメージ図を掲載するべきだ。</p> <p>○機能や外観も重要ではあるが、同様に、サイクリストだけではなく観光客も、地域の人とふれあい、お茶を淹れてもらい、心が癒されて帰ってもらいたい。そのうえで肝心なのが、地域自体が観光客に来てほしいという思いを持つことである。そのため、目標を描くと同時に、地域との話し合いをするようにしてはどうか。でき上がった案を提示しても地域の方の関心は薄いことが想定されるので、例えば、高齢者をターゲットにするなど、全ての階層ではなく、一つの階層でもターゲットを決めてやってみてはどうか。</p> <p>○よくある手法として、地域の方とのワークショップを開き、ディスカッションする中で目標を決めてはどうか。そのことで、地域の方も参加をしているという自覚が芽生え、その後の協力も望めるようになる。自発的に観光客をもてなすようになっていただくためには、拠点を作る段階からワークショップ等によって参画いただく必要がある。</p> <p>○ワークショップは、2・3回行うだけでも効果はある。</p> <p>○ワークショップは、合意形成の場ではなく、意見を交わし、出された意見について検討し反映させることが目的である。とにかく、多くの方の意見をもらうことを意識するべきである。</p> <p>→地元地域の代表者である地域長にも委員として参画いただいている。地域長に依頼し、老人会等のさまざまな地域団体の代表者</p>
--	--

	<p>を募ることも可能と考える。</p> <p>○パブリックコメントに付すとあるが、地域の方の意見を汲み上げる必要がある。</p> <p>○関係する団体の認識が難しいと考える。本事業は、ふるさと案内人や茶業組合などの地域団体が主体となり、運営していくと考えていた。これまでの意見では、拠点施設を主体とし、市全体の団体で運営することで、積極的な運営が可能であるとの意見であった。まずは、運営主体を決めることが必要と考える。</p> <p>○まずは、地域の老人会や女性の会などについて、呼びかけが必要である。</p> <p>→参画してみようと思っただけの団体の発掘が重要である。</p> <p>○提案書骨子（案）の検討にあたっては、地域における課題の記載があるが、その答えについての記載がない。本事業を地域振興のために行うのか、人々の集う場を作るために行うのか目的によって関わる人が異なってくる。そのため、憩い、癒し、ほっこり感、味わうといったキーワードとともに、どういう人が関わっていくのかを考えることが、今後議論を進める上で必要となってくると思われる。</p> <p>観光客を対象とするならば、木津川市まで来たいと思っていただくために、何が必要であるかを考えることが大切であり、サイクリストが集うようになるためには何が足りないのか等を検討する必要があるのではないかと。観光客を呼び込むためには他にはない魅力が必要である。たとえば、車に自転車を載せて輪行を行う人には駐車場を作るなど、観光客・サイクリスト・地域の人の、それぞれに提案できるメリットが必要である。</p> <p>○継続的に利益を上げるためには、ただもてなすだけでは意味がない。また、事業に密接に関わる地域の方に面倒を見ていただくことが賢明である。</p> <p>→市内の他地域からも羨望を得られるような事業にしたい。地域にも事業自体を楽しんでもらいたい。</p> <p>○この事業及び施設のイメージがわからない。本施設周辺を散策したと思うが、主婦からの視点では、おいしいものを食べられたり、家族でお茶を買ったり飲んだり、お茶の淹れ方を教われたら良い。</p> <p>○京都府として、お茶自体の振興の他、それにまつわる文化の振興</p>
--	--

	<p>も目指したい。本拠点周辺では、お茶について学べ、購入ができ、お茶を飲む習慣が広がればと考える。</p> <p>○新しい名物を作る、魅力を紹介する、その他、販売を行うなど、目的の機能も記載すれば良い。</p> <p>②運営主体、③運営手法について（資料３）</p> <p>事務局より、資料３に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 （○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）</p> <p>○単発事業であれば良いが、今後継続していくことを考えれば、不安がある。実行委員会、もしくはＮＰＯ法人を作るべきと考える。</p> <p>○理想はボランティアであるが、収益を得ることを考えれば、対価等を支払うことができる、ＮＰＯ法人のようなしっかりとした団体が必要であると考えられる。 もともとはサイクリストのための拠点であり、サイクリングロードから拠点までの道を整備するなど、もう少し、サイクリングとお茶に絞る必要があるのではないか。たとえば、お茶をメインとするのなら、自販機の設置は矛盾する。自販機の内容は、アンケートから、サイクリストに需要のあるスポーツドリンクに絞る等により、お茶とは区別すべきである。 また、土日休日に来る人が集中すると思われることから、その際、自転車で巡る人、歩いて巡る人、地元の人が利用する機能をそれぞれ整理すべきである。</p> <p>○ふるさと案内人としては観光客に対して、施設などのＰＲを行いたい。ただ、施設内でのもてなしや、応対を行うことは難しい。</p> <p>○訪れた訪問客、観光客にメリットを感じていただく必要がある。</p> <p>④広報戦略、⑤設置財源について（資料３）</p> <p>事務局より、資料３に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 （○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）</p> <p>○補助金は具体的にどうするのか。 →地域力再生プロジェクト等、その時点で有利な助成事業を利用したい。ただ、補助金を得るためにも実行委員会、もしくはＮＰＯ法人を主体としていただきたい。</p> <p>○いつまでに、受入れとなる運営主体となる組織を作らなければな</p>
--	---

	<p>らないのか。</p> <p>→補助金の助成事業に準ずる。実行委員会について、翌年５月までに設立をお願いしたい。</p> <p>○宇治市では、近年、お茶に対する取り組みが大きく変わり、成果を上げている。木津川市も見習うべきではないか。</p> <p>○サイクリストを対象とした場合、一人あたり一日消費単価は１０００円から２０００円であり、利益を得るという観点からすると、茶業組合には魅力が少ない。一方で、観光客全体を対象とすれば話も変わるため、対象を整理すべきである。</p> <p>○本事業は、単なる観光を目的とするだけでなく、サイクリングロードの終点付近で、かつ茶問屋街があるためであることから、それを活かすという趣旨を整理する必要がある。</p> <p>４．その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>５．閉会</p>
その他の 特記事項	

○第 4 回

環の拠点創出事業準備委員会 開催結果の要旨

会 議 名		第 4 回 木津川市環の拠点創出事業準備委員会			
日	時	平成 2 5 年 8 月 2 3 日（金） 午前 1 0 時から午前 1 1 時 5 0 分		場 所	木津川市役所 5 階全員協議会室
出 席 者	委 員	■山崎 正史（会長）、□岡井 有佳（副会長） ■福井 保知、■川邊 隆司、■坂本 利正、 ■杉野 耕造、 ■辻 忠、■出栗 伸幸、■花田 啓、■藤原 久博（代理出席：矢嶋 美千代）、□吉村 由美子 ※□：欠席者			
	その他出席者	【オブザーバー】 京都府総務部自治振興課 参事 藤岡 栄 京都府山城広域振興局 企画総務部 企画振興室 室長 湯瀬 敏之 【市関係部署】 山城支所 支所長 松井 功			
	事 務 局	尾崎課長、奥田補佐、茅早主査			
議 題	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 （1）報告事項 ・前回までの準備委員会議事の流れ（資料 1） （2）協議事項 ・木津川市環の拠点創出事業に関する提言書（中間案）について（資料 2） ①第 1 章 木津川市の現況と環の拠点創出事業 ②第 2 章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容 ③第 3 章 事業の将来性 4. その他 （1）今後のスケジュールについて 5. 閉会				
審 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 会長挨拶 議事に先立ち山崎会長から挨拶があった。 3. 議事 （1）報告事項				

	<p>・ 前回までの準備委員会議事の流れ（資料１） 事務局より、資料１に基づき説明し、確認した。</p> <p>（２）協議事項</p> <p>・ 木津川市環の拠点創出事業に関する提言書（中間案）について（資料２）</p> <p>①第１章 木津川市の現況と環の拠点創出事業 事務局より、資料２に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>②第２章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容 事務局より、資料２に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>④第３章 事業の将来性 事務局より、資料２に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>４．その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>５．閉会</p>
審 議 経 過 要 旨	<p>１．開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>２．会長挨拶 審議結果要旨のとおり。</p> <p>３．議事 （１）報告事項 審議結果要旨のとおり。</p> <p>（２）協議事項</p> <p>・ 木津川市環の拠点創出事業に関する提言書（中間案）について</p> <p>①第１章 木津川市の現況と環の拠点創出事業 事務局より、資料２に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 （○…質疑・意見、→…質疑に対する返答）</p> <p>○提言書の出だしから、いきなり茶問屋が出てくるとに、疑問を感じる市民があると考え。なぜ、と違和感がないか考えるが。 →サイクリストにターゲットを絞った事業を計画するにあたり、</p>

	<p>府道京都八幡木津自転車道線の起終点と茶問屋街のある上狛南部地域が近いといったことから、本地域を中心とした事業を計画したものである。</p> <p>○1-2において、表題を「地域における課題」とするよりも、「将来のあるべき姿」のように夢のある文言とした方がよいのではないか。サイクリングや茶問屋街を手段として用い、その結果、本地域の活性化を図ることが分かるようにするべきである。 →「貴重な地域資源の活用に向けて」などに修正し、目指すべき姿を本文に記載することとする。</p> <p>○1-2を確認すると、いきなり「上狛南部は」となっていることから、違和感があるのではないか。例えば、「木津川市は」から始め、その後にサイクリングの話をするなどに変更してはどうか。</p> <p>○歴史的にも上狛南部の茶問屋は、価値のある注目すべき場所であることから、あえて茶問屋の文言を下部に変更するなどしなくても良いと考える。</p> <p>○重要度としては、茶問屋が最初にあるべきと考える。しかしながら、全体として、木津川市の中の茶問屋とする方が、受け止められやすいと考える。 →前段で、木津川市の茶問屋を説明しており、「前述のとおり」などの文言を挿入し、違和感を感じることをないように修正する。</p> <p>○1-1で、この上狛南部地域を守っていかなければならないということを記述すれば、1-2に繋がっていくのではないか。1-1で、「木津川市左岸には～現在も残されている」を最後にし、魅力を発信したくなるような地域であることをアピールすることで、1-2の課題につなげやすいのではないか。また、「新たな事業を創出する必要がある」ではなく、こんな姿にしたいなどの夢を語ることで、前向きな印象が生まれるのではないか。 →新たな事業を創出するために検討を開始したという表現に修正する。</p> <p>②第2章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容 事務局より、資料2に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)</p> <p>○2-1に拠点施設に関することとあるが、前段に施設の必要性等の記述が必要と考える。</p>
--	--

	<p>○ 1-2 に、サイクリングロードについての記述があり、それを活かした拠点づくりを行い、地域振興に活用するなどを記述すべきある。</p> <p>→ 拠点施設の必要性について、前段に記述することとする。</p> <p>○ 2-3-2 で、拠点施設の導入機能の記載があるが、2-1-2 の次に記載する方が繋がりやすいのではないか。</p> <p>また、導入機能にシャワーの設置の記述はできないか。車で来場した場合、汗を流すことのできる機能が必要と考える。</p> <p>→ 導入機能の記述について、2-1-2（拠点施設の配置）の後に、変更する。</p> <p>現時点において、シャワーの設置については、予定していない。</p> <p>○ シャワーの設置が無理なのは、費用面からであるのか。例えば、ワンコイン（500円）シャワーを設置すれば、採算が取れると考える。ただ、法規制もあると考えるが。</p> <p>○ サイクリストとして、泉大橋で自転車を降りる方の使用は考えられるが、嵐山などに帰る方については、サイクリングの途中であることから、使用は見込めないと考える。</p> <p>○ しまなみ海道や樫原サイクリングターミナルなど、車で施設に来場し、サイクリングを楽しみ、車で帰る場合によく使用される場所には、シャワー施設の設置がある。</p> <p>本施設は、レンタサイクルを利用する観光客や、トレイルランニングの拠点と需要が見込まれるのではないか。</p> <p>→ 導入機能について、コインシャワーを追加する。</p> <p>○ 3 頁下に「市外との広域的な観光連携」との記載があるが、本提言書中間案では、取り上げていない。自転車道の北は嵐山、南は飛鳥・樫原まで繋がっていることから、このことについて記載すべきである。</p> <p>→ 3 章の事業の将来性にて、記載することとする。</p> <p>○ 自転車道の起終点は車道に面しており、初心者には恐怖を感じるのではと考える。こういったことから、自転車道を、現在の木津川左岸から、木津川右岸に変更してほしいとの意見がこれまでから出ている。</p> <p>道路整備も必要なことから、すぐには無理かも分からないが、実現を検討いただきたいと考える。</p> <p>○ サイクリストからすれば、木津川右岸も走ってみたいという気持ちはある。</p> <p>城陽市のサイクリングマップには右岸側も取り入れている。災害時、あるいは歩行者、ロードバイクのことも考え、右岸側も整備してほしい。</p>
--	---

	<p>→ 3 章にて、道路整備のことも含めて記載したい。</p> <p>○ 7 頁に記述している「建築基準法に限りなく準じるとともに」は、少しは違反するなど捉えられかねないことから、修正すべきである。</p> <p>また、「アンケート結果のとおり」と記述しているが、アンケート結果の記載がないことから、分かりづらい。</p> <p>→ アンケート結果などを記載するよう、修正する。</p> <p>○ 10 頁に記載の「山城町マスコット募集」であるが、市にはいづみ姫というマスコットがあることから、それを活用してはどうか。</p> <p>→ いづみ姫の活用に修正する。</p> <p>○ 8 頁の実行委員会方式の「不安視」とあるが、「課題」でいいと考える。</p> <p>P D C A サイクルについて、詳しく記述すること。</p> <p>また、「報告書の作成・評価」とあるが、「事業の評価で良い」と考える。</p> <p>→ 修正する。</p> <p>○ 10 頁上部に記述している、「サイクリストの誘客のために、個人や自宅でのおもてなしをおこなう必要がある」とはどういうことか。</p> <p>市民におもてなしをしていただくといった、文言に修正してはどうか。</p> <p>→ 修正する。</p> <p>④ 第 3 章 事業の将来性</p> <p>事務局より、資料 2 に基づき説明し、確認し、質疑応答を行った。</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。</p> <p>(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)</p> <p>○ 本施設は、市域の中心でもあることから、広域観光の拠点として活用することをアピールしたい。また、市内の観光スポットに関する情報交換の場としても活用したい。加えて、「広域自転車道のセンター機能」としても活用してはどうか。</p> <p>○ サイクリングロードの起終点でもあり、端というイメージがあるが、和束町や、京都・奈良にも行ける「ハブ」的な位置である。本施設を拠点とし、どこにでも行ける場所として、活用することができる。マップ作成には、ぜひこのことも考慮し、作成してほしい。</p>
--	--

	<p>→ 3-2 に、「ハブ機能を持たせ」などの文言を追記する。</p> <p>○ 3-3 において、「連携した事業運営はなかった」とわざわざ書く必要はない。 →修正する。</p> <p>○ 3-4 において、「どの地域においても一部は近代的な住宅が」とあるが、新しく住宅を建ててはいけないと感じる。デザインが調和したような建物であれば問題がないことから、「景観の調和が今後の課題」などに変更した方がいい。できれば、「保全」などの文言を使用してはどうか。 →修正する。</p> <p>○ 3-2 では、茶問屋街と木津本町・船屋地区が同列として記述している。「茶問屋街と同様に」などに修正してはどうか。 →修正する。</p> <p>○ 3-1 について、供給側の視点が強いことから、サイクリストや利用者が楽しむといった視点や、また気持ちを組み入れた記述がほしい。 →修正する。</p> <p>○ シティマップに記載する観光スポットについて、統一性がない。 また、文字が小さく読み取れない。 → 本編は A4 サイズにて作成しているが、A3 に変更し見やすくする。</p> <p>4. その他 審議結果要旨のとおり。</p> <p>5. 閉会</p>
その他特記事項	傍聴者 2 名

○第 5 回

環の拠点創出事業準備委員会 開催結果の要旨

自転車利用者アンケートの実施結果

■アンケートの目的

自転車利用者のニーズを調査し、拠点施設の導入機能や広報戦略の検討資料とする。

■配布方法等について

アンケートは、自転車道を走行している方と木津川サイクリング倶楽部が行った初心者講習会の参加者を対象として実施した。

なお、自転車道を走行している方には自転車道配布用を、また初心者講習会の方には団体等配布用を用いた。

	自転車道利用者	初心者講習会（木津川サイクリング倶楽部）
実施日	平成25年3月9日（土）	平成25年2月24日（日）
実施場所	府道京都八幡木津自転車道線 上津屋橋（流れ橋）休憩所	アスパアやましろ
配布数・回収数	100人	28人
配布方法	休憩している方に配布・回収	講習会参加者に配布・回収

■アンケートの概要

アンケートの設問は、以下の内容とした。

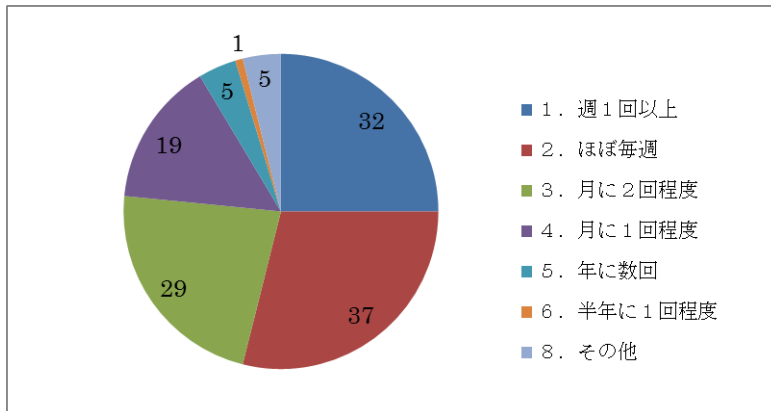
項 目 【 】はアンケートの問番号	理由・活用方法
活動頻度 （サイクリングに出かける頻度【1】、自転車道の利用頻度【2】）	需要調査 （来場者予測）
行程 （目的地【3】、休憩地【4】、利用施設【5・6】）	範囲設定 （広報範囲、モデル施設）
利用意向 （施設の必要性【7】、位置の妥当性【8】）	需要調査 （他地域への応用）
導入機能 （施設【9】、設備【9】、サービス【10】）	導入機能選定 （施設整備の優先順位）
サイクリングコースの設定要素 （コース特性【11】、付加価値【11】）	利用促進策 （モデルコース設定）
情報取得ツール （情報取得方法【12】）	広報戦略 （広報媒体の優先順位）
消費額 （1行程の消費額【13】）	観光消費額調査 （収支計算）
属性（フェイスシート） （性別【14】、年齢【15】、利用歴【16】、自転車の種類【17】）	顧客特性 （クロス集計）

アンケート集計結果

※グラフの数値は回答数

問 1-1 どれくらいの頻度でサイクリングに出かけていますか。

・約3割の方が、ほぼ毎週サイクリングをおこなっており、週1回以上・月に2回程度を合わせると、約8割を占める。



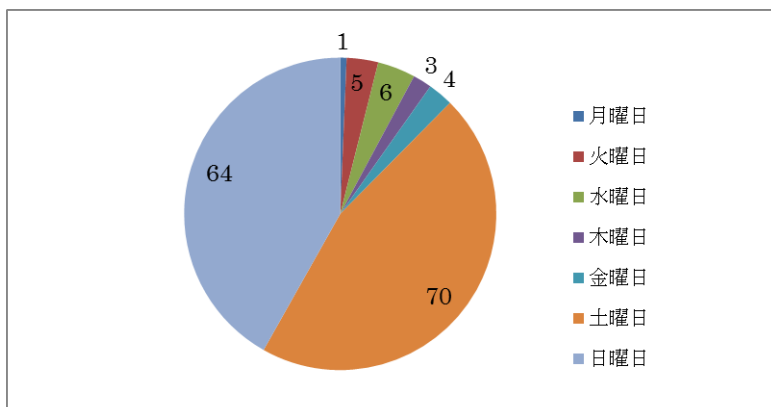
選択肢	回答数	割合
1. 週1回以上	32	25%
2. ほぼ毎週	37	29%
3. 月に2回程度	29	23%
4. 月に1回程度	19	15%
5. 年に数回	5	4%
6. 半年に1回程度	1	1%
7. 年に1回程度	0	0%
8. その他	5	4%
合計	128	100%

「8. その他」の記載内容

・ ほぼ毎日 ・ 晴日は毎日 ・ 毎日

問 1-2 よく出かけられる曜日はいつですか。(複数回答)

・ 土曜日・日曜日で約9割を占める。

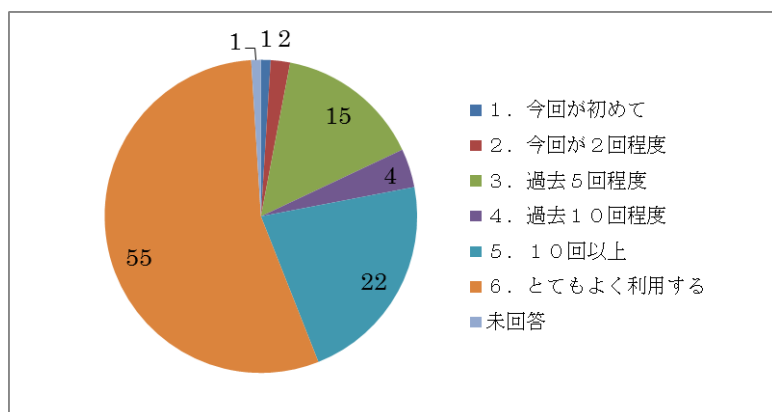


選択肢	回答数	割合
月曜日	1	1%
火曜日	5	3%
水曜日	6	4%
木曜日	3	2%
金曜日	4	3%
土曜日	70	46%
日曜日	64	42%
合計	153	100%

問2 府道京都八幡木津自転車道線はよく利用しますか。

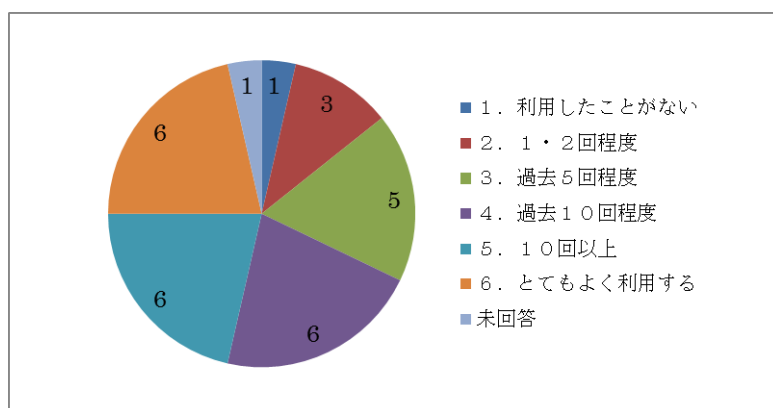
- ・自転車道配布用では、とてもよく利用するが最も多く5割を超えた。
- ・団体用配布用でも、利用したことがない方は1人であった。
- ・全体でもほとんどの方が利用した経験を持ち、過去5回程度利用している方が約9割であった。

自転車道配布用



選択肢	回答数	割合
1. 今回が初めて	1	1%
2. 今回が2回程度	2	2%
3. 過去5回程度	15	15%
4. 過去10回程度	4	4%
5. 10回以上	22	22%
6. とてもよく利用する	55	55%
未回答	1	1%
合計	100	100%

団体等配布用



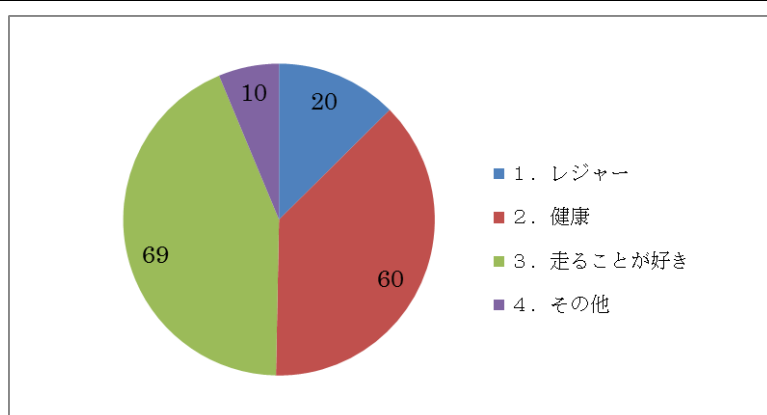
選択肢	回答数	割合
1. 利用したことがない	1	4%
2. 1・2回程度	3	11%
3. 過去5回程度	5	18%
4. 過去10回程度	6	21%
5. 10回以上	6	21%
6. とてもよく利用する	6	21%
7. 知らなかった	0	0%
未回答	1	4%
合計	28	100%

「6. とてもよく利用する」と答えた61人のひと月の利用頻度

1回： 4人	2回： 12人	3回： 4人
4回： 12人	5回： 2人	6回： 3人
7回： 3人	10回： 2人	20回： 5人
30回： 1人		

問3-1 自転車に乗る目的は何ですか。(複数回答)

・走ることが好きな方が約7割、健康を目的とされている方が6割であった。



選択肢	回答数	割合
1. レジャー	20	13%
2. 健康	60	38%
3. 走ることが好き	69	43%
4. その他	10	6%
合計	159	100%

「8. その他」の記載内容

・いろいろ ・トレーニング ・ひまつぶし ・レースの練習 ・練習

問3-2 よく行かれる目的地はどこですか。(複数回答)

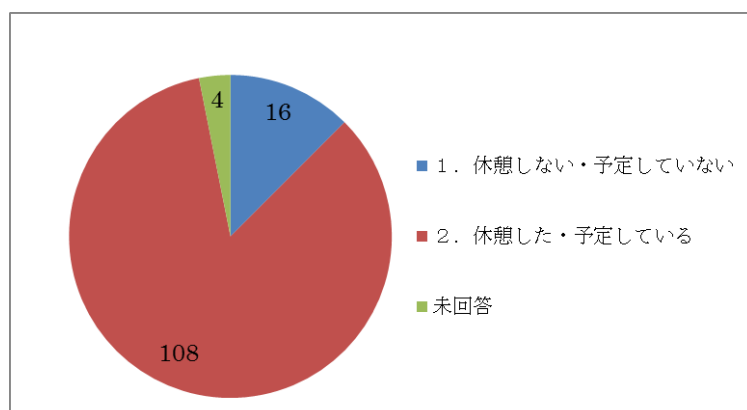
- ・府道京都八幡木津自転車道線でアンケートを行ったこともあり、嵐山・上津屋橋が約3割を占めた。
- ・木津を目的地とした方は約1割であった。

2人以上の回答があった目的地		1人から回答のあった目的地
嵐山	15人	けいはんなホテル（精華町） けいはんな記念公園（精華町） 当尾（木津川市）、三国超林道（和束町～伊賀市） 大正池（井手町）くろんど池（交野市・生駒市） 京都市、京都大原、大和郡山市、吉野町、枚方市、門真市、淀川、藤井寺市、金剛山、天野原、和歌山県 （地名・施設名以外） パン屋、直売所、歴史跡巡り 日帰り圏内どこでも、自然との触れ合い
上津屋橋（流れ橋）	10人	
木津 ※木津川市(1)含む	8人	
八幡市 ※御幸橋(2)含む	4人	
奈良市	4人	
信楽	4人	
和束町	3人	
京田辺市 ※京田辺市運動公園(1)含む	2人	
明日香村	2人	
滋賀県 ※琵琶湖(1)含む	2人	
大阪市	2人	

計78件

問4 休憩はどうされますか。(複数回答)

- ・約8割は途中で休憩をしたり休憩の予定をしている。
- ・府道京都八幡木津自転車道線でアンケートを行ったこともあり、上津屋橋と答えた方が多かったが、次いでコンビニであった。



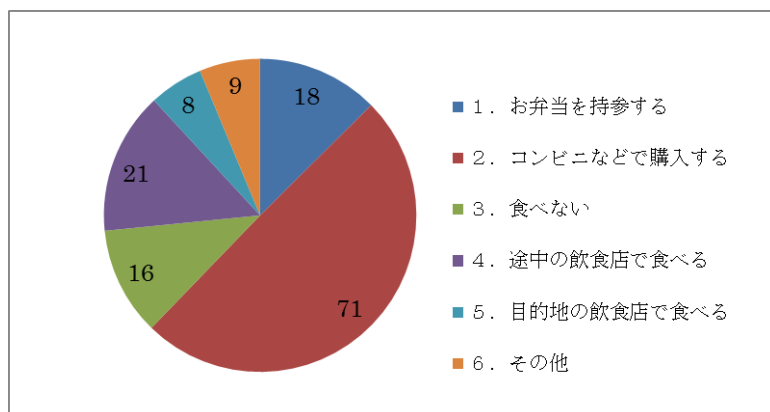
選択肢	回答数	割合
1. 休憩しない・予定していない	16	13%
2. 休憩した・予定している	108	84%
未回答	4	3%
総計	128	100%

2人以上の回答があった施設名または地名		1人から回答のあった施設名または地名
上津屋橋（流れ橋）	34人	アスパ山城、イオン高の原、 木津、木津三角公園、 嵐山、背割堤（八幡市）、京田辺市、 山吹ふれあいセンター（井手町）、 茶カフェ（和束町）、 トイレのある所、喫茶店、川岸
コンビニ	12人	
舟形公園（京田辺市）	5人	
けいはんなプラザ（精華町）	3人	
四季彩館（八幡市）	3人	
桂大橋（京都市）	2人	
御幸橋（八幡市）	2人	
公園	2人	
石清水八幡宮（八幡市）	2人	
泉大橋	2人	
道の駅	2人	

計 81 件

問5 昼食はどうされますか。（複数回答）

- ・コンビニなどで購入している方が約5割、飲食店で食べる方は約2割であった。
- ・食べない方も約1割であった。



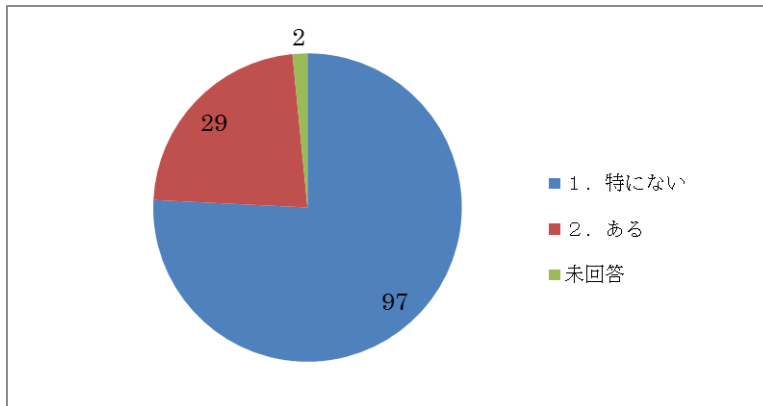
選択肢	回答数	割合
1. お弁当を持参する	18	13%
2. コンビニなどで購入する	71	50%
3. 食べない	16	11%
4. 途中の飲食店で食べる	21	15%
5. 目的地の飲食店で食べる	8	6%
6. その他	9	6%
合計	143	100%

「よく利用する施設」「その他」の記載内容

- ・家で食べる（４人） ・携帯食（２人） ・パン（１人）
- ・けいはんなプラザ（精華町）（１人） ・伏見区（１人）

問６ 普段、サイクリングでよくご利用される施設はありますか。

- ・特定の利用施設がない方が７割以上であった。
- ・コンビニを利用している方が最も多い。



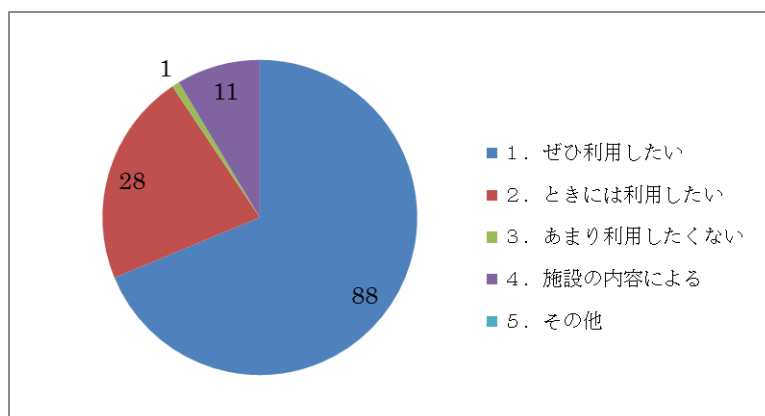
選択肢	回答数	割合
1. 特にない	97	76%
2. ある	29	23%
未回答	2	2%
合計	128	100%

２人以上の回答があった施設名		１人から回答のあった施設名
コンビニ	13 人	イオン高の原、アスパシア山城、 四季彩館（八幡市）、御幸橋付近のコンビニ、 京田辺市、けいはんなプラザ（精華町）、 淀川、関西医大の休憩所（枚方市） 雨つゆをしのげる場所
トイレ	4 人	
スーパー	3 人	
道の駅等	2 人	
上津屋橋（流れ橋）	2 人	
公園	2 人	

計 35 件

問７ 木津川市内の自転車道周辺に休憩所があれば利用したいですか。

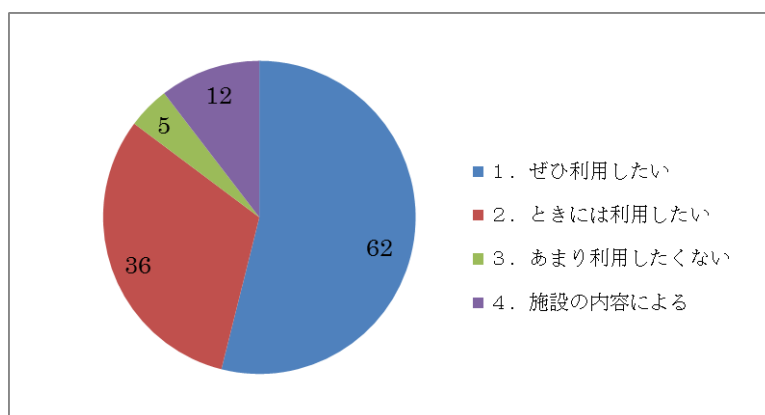
- ・ぜひ利用したいが約７割であり、ときには利用したいを合わせると約９割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. ぜひ利用したい	88	69%
2. ときには利用したい	28	22%
3. あまり利用したくない	1	1%
4. 施設の内容による	11	9%
5. その他	0	0%
合計	128	100%

問 8 設置した拠点施設をご利用いただけますか。

- ・ ぜひ利用したい・ときには利用したいを合わせると約 8 割を占める。
- ・ 施設の内容によると答えた方が約 1 割。



選択肢	回答数	割合
1. ぜひ利用したい	61	48%
2. ときには利用したい	36	28%
3. あまり利用したくない	5	4%
4. 施設の内容による	11	9%
5. その他	2	2%
未回答	13	10%
合計	128	100%

問 8-1 問 8 で「3. あまり利用したくない」を選択された方の理由は何ですか。

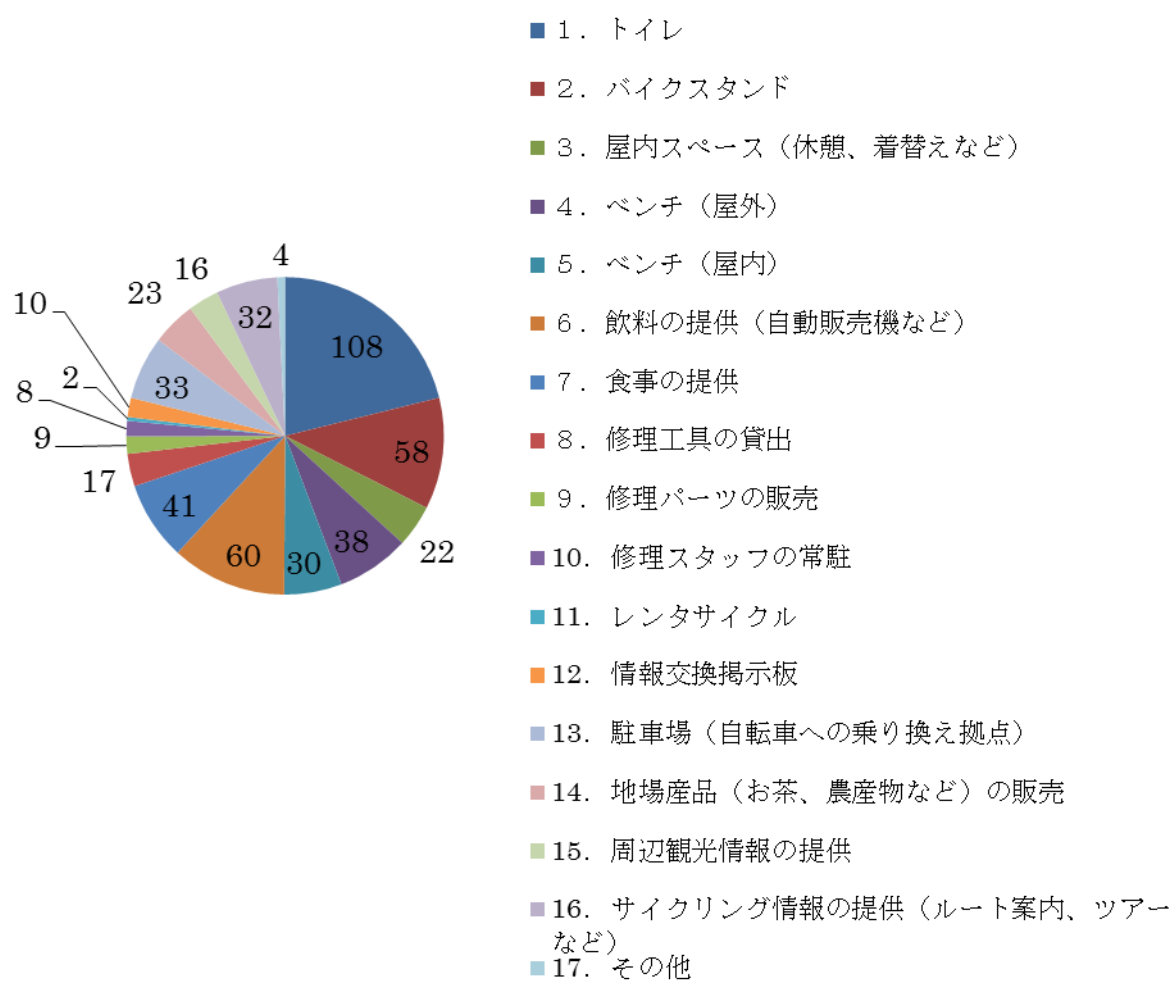
選択肢	回答数	割合
1. 自転車道から離れている	2	40%
2. 泉大橋を渡るのが面倒	0	0%
3. 周辺地域に魅力がない	0	0%
4. 施設の必要性を感じない	0	0%
5. 周辺の道路事情	0	0%
6. その他	2	40%
未回答	1	20%
合計	5	100%

「その他」の記載内容

- ・行かない

問 9 拠点施設の機能として、何が特に必要と思いますか。（複数回答）

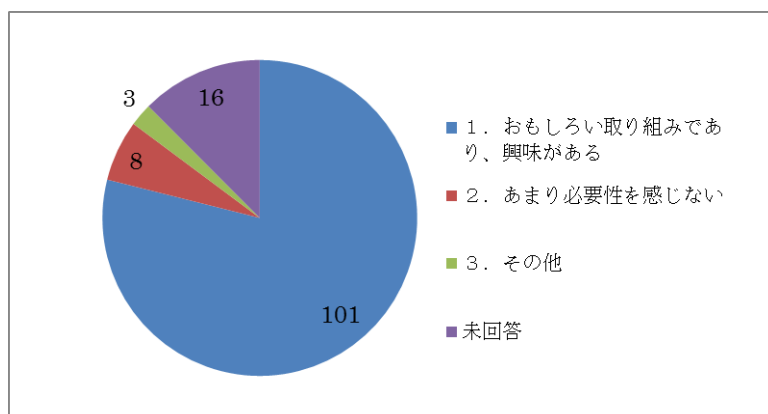
- ・回答者数 128 人に対し、トイレを選択した方が 108 人と約 8 割を占めた。
- ・トイレ以外で、回答者数の 3 割以上が選択した機能としては、飲料の提供（60 人）・バイクスタンド（58 人）・食事の提供（41 人）・屋外ベンチ（38 人）であった。



選択肢	回答数	割合
1. トイレ	108	21%
2. バイクスタンド	58	11%
3. 屋内スペース（休憩、着替えなど）	22	4%
4. ベンチ（屋外）	38	7%
5. ベンチ（屋内）	30	6%
6. 飲料の提供（自動販売機など）	60	12%
7. 食事の提供	41	8%
8. 修理工具の貸出	17	3%
9. 修理パーツの販売	9	2%
10. 修理スタッフの常駐	8	2%
11. レンタサイクル	2	0%
12. 情報交換掲示板	10	2%
13. 駐車場（自転車への乗り換え拠点）	33	6%
14. 地場産品（お茶、農産物など）の販売	23	5%
15. 周辺観光情報の提供	16	3%
16. サイクリング情報の提供（ルート案内、ツアーなど）	32	6%
17. その他	4	1%
合計	511	100%

問 10 お茶のおもてなしといった地域資源を活用したサイクリング拠点をどう感じるか。

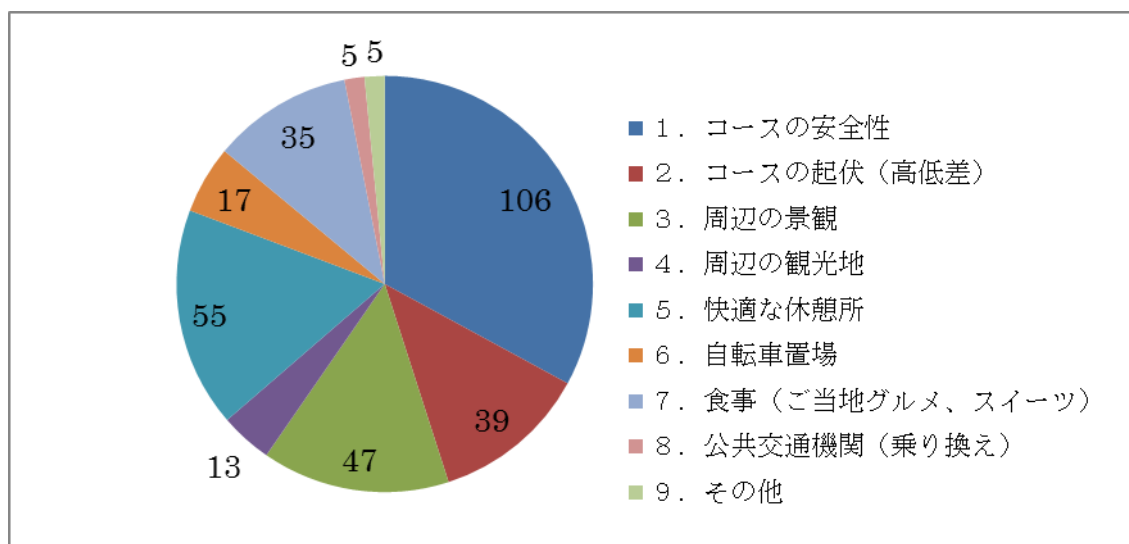
・おもしろい取り組みであり興味がある方が約9割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. おもしろい取り組みであり、興味がある	101	79%
2. あまり必要性を感じない	8	6%
3. その他	3	2%
未回答	16	13%
総計	128	100%

問 11 サイクリングコースを考える上で重視していることは何ですか。(複数回答)

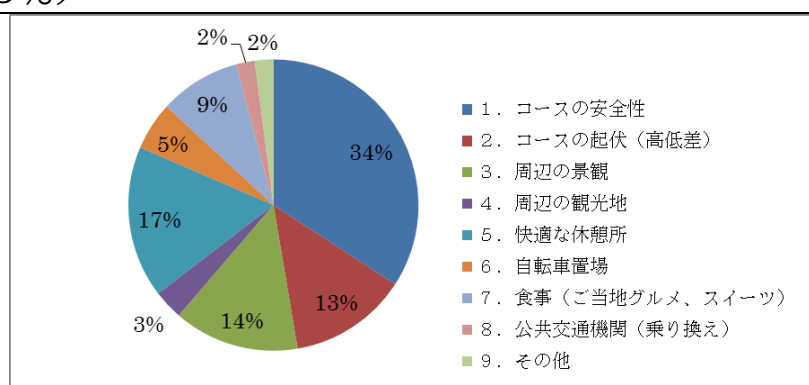
・回答者数 128 人に対し、コースの安全性を選択した方が 106 人と約8割を占めた。
 ・コースの安全性以外で、回答者数の約3割が選択した項目は、快適な休憩所（55人）・周辺の景観（47人）・コースの起伏（39人）・食事（35人）であった。



選択肢	回答数	割合
1. コースの安全性	106	33%
2. コースの起伏（高低差）	39	12%
3. 周辺の景観	47	15%
4. 周辺の観光地	13	4%
5. 快適な休憩所	55	17%
6. 自転車置場	17	5%
7. 食事（ご当地グルメ、スイーツ）	35	11%
8. 公共交通機関（乗り換え）	5	2%
9. その他	5	2%
合計	322	100%

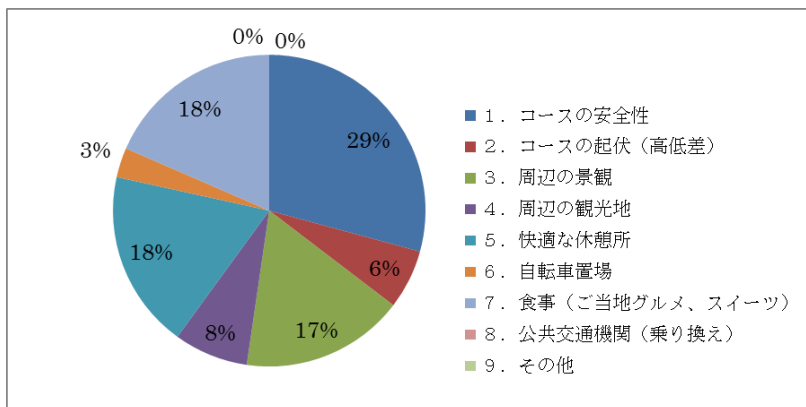
問 1 1 の男女別集計

- ・男女共にコースの安全性が最も多くいずれも約3割を占める。
- ・食事（ご当地グルメ、スイーツ）では女性の関心が高い。（女性 18%・男性 9%）



男性

選択肢	男性	
	回答数	割合
1. コースの安全性	83	34%
2. コースの起伏(高低差)	32	13%
3. 周辺の景観	34	14%
4. 周辺の観光地	8	3%
5. 快適な休憩所	41	17%
6. 自転車置場	13	5%
7. 食事(ご当地グルメ、スイーツ)	22	9%
8. 公共交通機関(乗り換え)	5	2%
9. その他	5	2%
合計	243	100%



女性

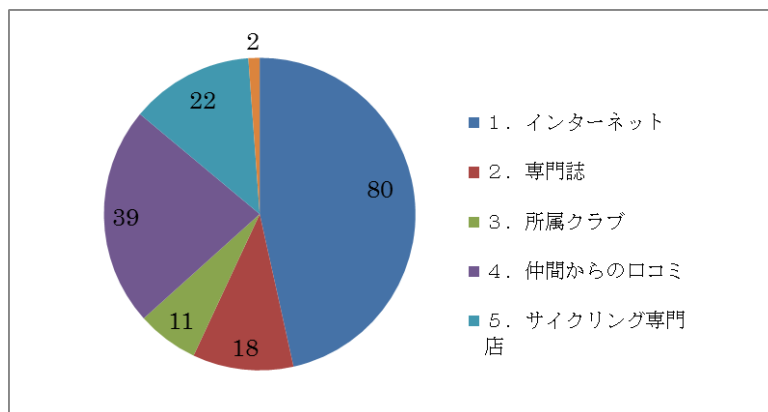
選択肢	女性	
	回答数	割合
1. コースの安全性	19	29%
2. コースの起伏(高低差)	4	6%
3. 周辺の景観	11	17%
4. 周辺の観光地	5	8%
5. 快適な休憩所	12	18%
6. 自転車置場	2	3%
7. 食事(ご当地グルメ、スイーツ)	12	18%
8. 公共交通機関(乗り換え)	0	0%
9. その他	0	0%
合計	65	100%

問 1 2 普段、サイクリングに関する情報（イベント、ツアーなど）をどのように取得されますか。

(

複数回答)

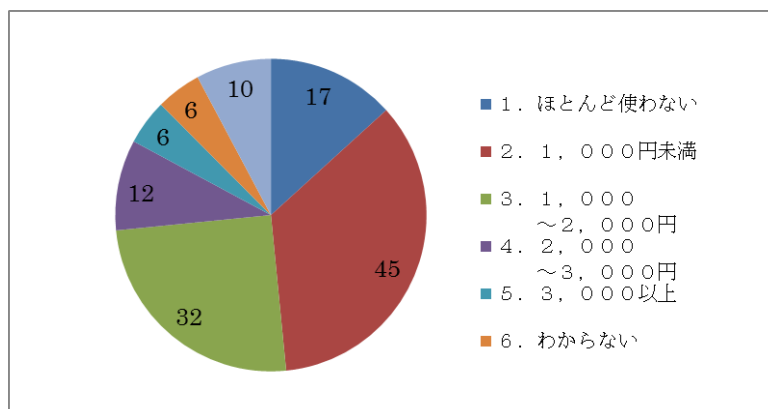
- ・回答者数 128 人に対し、インターネットを活用している方が 80 人と約 6 割を占めた。
- ・回答者数 128 人に対し、仲間からの口コミの方が 39 人と約 3 割を占めた。



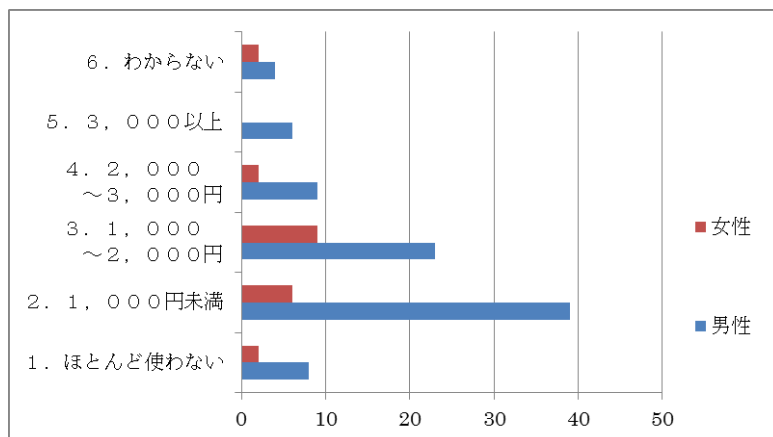
選択肢	回答数	割合
1. インターネット	80	47%
2. 専門誌	18	10%
3. 所属クラブ	11	6%
4. 仲間からの口コミ	39	23%
5. サイクリング専門店	22	13%
6. その他	2	1%
合計	172	100%

問 1 3 サイクリング 1 回の予算はどの程度ですか。

- ・ 1,000 円未満が最も多く、2,000 円未満が約 7 割を占めた。
- ・ 3,000 円以上使う方は、全体の 5 %に過ぎなかった。
- ・ 男女別では、男性は 1,000 円未満が最も多く、女性は 1,000～2,000 円でした。

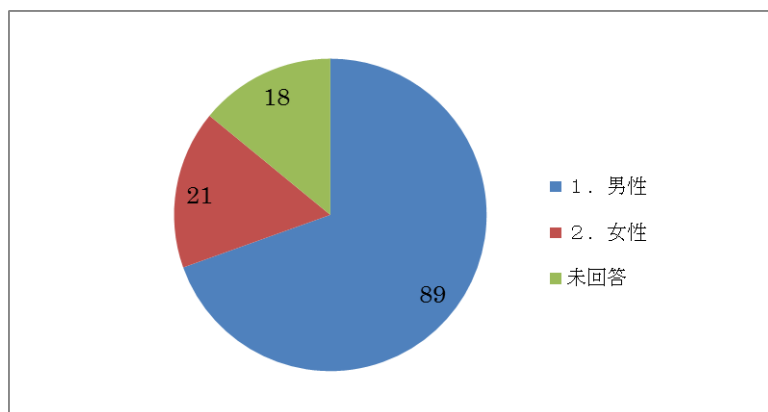


選択肢	回答数	割合
1. ほとんど使わない	17	13%
2. 1,000円未満	45	35%
3. 1,000～2,000円	32	25%
4. 2,000～3,000円	12	9%
5. 3,000円以上	6	5%
6. わからない	6	5%
未回答	10	8%
合計	128	100%



問 1 4 あなたの性別はどちらですか。いずれかに○を付けてください。

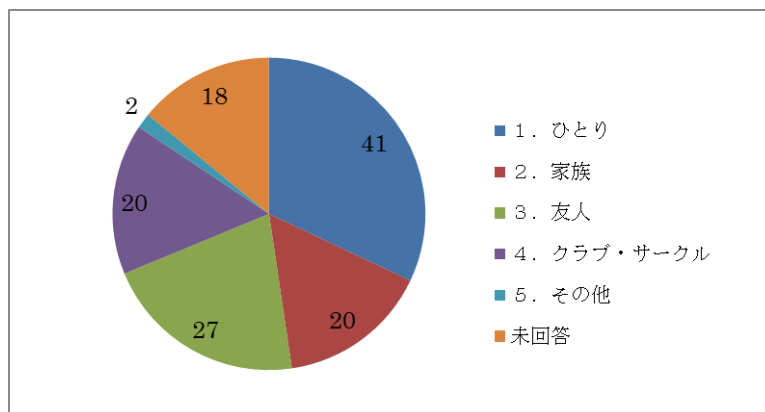
・男性が7割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. 男性	89	70%
2. 女性	21	16%
未回答	18	14%
合計	128	100%

問 1 5 普段、どういった方と一緒にサイクリングをされますか。

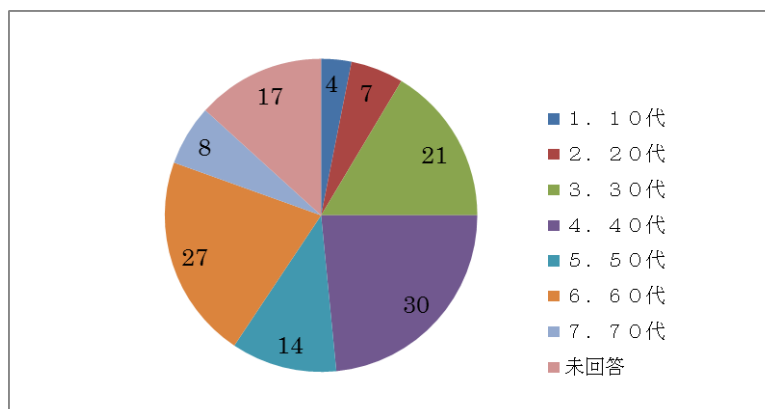
・ひとりで行動している方が全体の4割を占める。



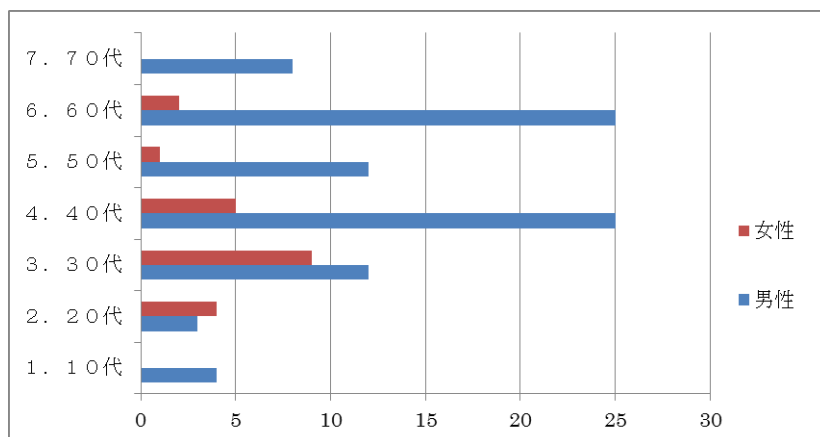
選択肢	回答数	割合
1. ひとり	41	32%
2. 家族	20	16%
3. 友人	27	21%
4. クラブ・サークル	20	16%
5. その他	2	2%
未回答	18	14%
合計	128	100%

問 1 6 あなたは何歳ですか。いずれかに○を付けてください。

- ・ 30代から60代で幅広い世代の利用がある。
- ・ 男性は40代・60代がそれぞれ約2割を占める。
- ・ 女性は30代が多く次いで40代となっている。

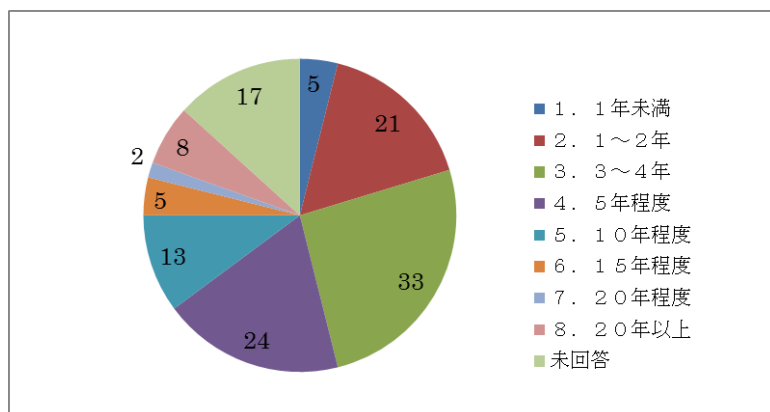


選択肢	回答数	割合
1. 10代	4	3%
2. 20代	7	5%
3. 30代	21	16%
4. 40代	30	23%
5. 50代	14	11%
6. 60代	27	21%
7. 70代	8	6%
未回答	17	13%
合計	128	100%



問 17 あなたのサイクリング歴を教えてください。いずれかに○を付けてください。

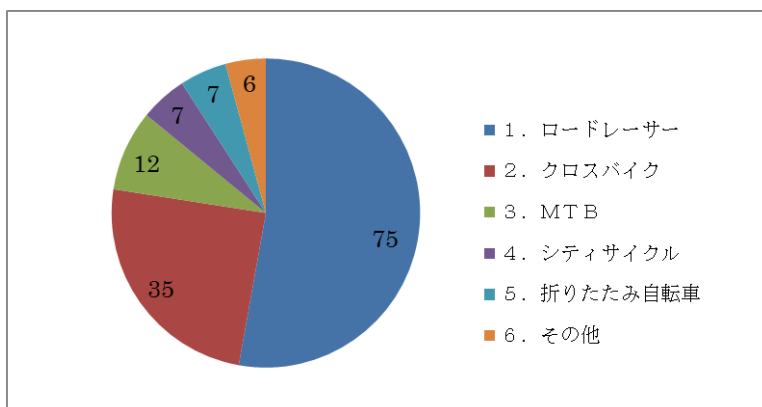
・ 5年以下の方が約8割を占める。



選択肢	回答数	割合
1. 1年未満	5	4%
2. 1～2年	21	16%
3. 3～4年	33	26%
4. 5年程度	24	19%
5. 10年程度	13	10%
6. 15年程度	5	4%
7. 20年程度	2	2%
8. 20年以上	8	6%
未回答	17	340%
合計	128	100%

問 18 普段、使用されている自転車のタイプはどれですか。(複数回答)

- ・回答者数 128 人に対し、ロードレーサーを使用している方が 75 人と約 6 割を占めた。
- ・ロードレーサーとクロスバイクの利用者が全体の約 8 割を占めた。



選択肢	回答数	割合
1. ロードレーサー	75	53%
2. クロスバイク	35	25%
3. MTB	12	8%
4. シティサイクル	7	5%
5. 折りたたみ自転車	7	5%
6. その他	6	4%
合計	142	100%

「6. その他」の記載内容

- ・ランドナー
- ・ミニベロ
- ・持っていない
- ・トラックレース用改造
- ・電動自転車

交流拠点の設置に関するご意見・ご提案

- ・サイクリングロードに看板を設置ください。
- ・サイクルロードのトイレの完備。
- ・トイレの完備、バイクスタンド。

- ・飲み物を補給できる自動販売機を設置してください。
- ・夏場の日陰や強風をしのげる場所及びトイレがないので是非進めてほしい。
- ・休める所がある事は有意義です。
- ・子どもも楽しめるようにして頂きたいです。
- ・子どもも遊べる公園があればうれしいです。
- ・終点ならば駐車場は是非欲しいです。夏場の水分補給場所が増えるとうれしい。
- ・女性も仲間にいるのでトイレの設置。
- ・地域の特産品を飲食できるような場所もあれば良いのでは。
- ・地元住民の理解、迷惑にならないように。
- ・駐車場（自転車への乗り換えができる施設）。
- ・特別なものはいいりませんが、必要なものが常時あるとありがたい。
- ・箱だけでなくイベントにも力を入れてください。
- ・木津川は関西で最も走りやすい自転車道です。施設を是非に。
- ・隣接の市町村が協力して広域的な整備ができれば良いですね。御苦労さまです。
- ・おもしろい取組なので頑張ってください。
- ・がんばってください。
- ・ぜひ設置をお願いします。
- ・頑張ってください。
- ・頑張って作ってください。
- ・地域交流拠点を是非実現してください。